

## 授業計画(シラバス)

科目名	憲法	指導担当者名	宍戸 幸
実務経験		実務経験:	無
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法的な思考ができるようになる。</li> <li>・法律の規定を正しく解釈し、理解する。</li> <li>・人権感覚や法的倫理感を身につける</li> <li>・日本国の統治の仕組みについて基本的な事項を理解する。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	霜鳥 秋則著 教職・教養のための日本国憲法入門 ジアース教育新社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	憲法の意味	日本国憲法を読む、日本国憲法の歴史
	18	憲法の変遷と基本原理	国民主権の原理と天皇制、平和主義
	19	人権編	基本的人権の原理・保障と限界
	20		法の下での平等
	21		精神に関する自由権
	22		身体に関する自由権
	23		経済に関する自由権
	24		参政権と国務請求権
	25		国会
	26		内閣
	27		裁判所
	28		地方自治と財政
	29	違憲審査制度	違憲審査制度
	30	憲法改正	憲法改正
31	まとめ	授業の総まとめ	
32			
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	情報リテラシー	指導担当者名	井口 義基
実務経験		実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Windowsの基本操作を理解する。</li> <li>・インターネットの基本概念を理解し、活用する能力を身に着ける。</li> <li>・ワープロソフトを活用し、基本的な文章を作成する能力を身に着ける。</li> <li>・表計算ソフトを活用し、表、グラフを作成する能力を身に着ける。</li> <li>・プレゼンテーションソフトを活用し、発表資料を作成能力を身に付ける。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	よくわかるMicrosoftWord2021 & MicrosoftExcel2021 & MicrosoftPowerPoint2021 FOM出版		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  前期	1	PCとは	<Windowsの概要> Windowsの基本的な操作を理解する
	2	五大装置について	コンピュータの五大装置について学ぶ
	3	電子メール	メールの設定、送受信、署名について学ぶ
	4	Word(文書作成)の基本で学ぶ	IME、文字の入力、削除等について学ぶ
	5	Excel(表計算ソフト)の基本	入力の仕方、関数、仕組み、機能について学ぶ
	6	情報セキュリティI	情報機器の利便性と危険性、対応方法について学ぶ
	7	情報セキュリティII	保管方法、機密保護について学ぶ
	8	スマホ決済の不正利用について	スマホ決済の不正利用について事例をあげ説明
	9		発生時期について
	10		被害を受けたサービス事業者
	11		被害の概要
	12		不正利用の手口
	13		不正利用の防止方法について
	14		被害発見方法について
	15		被害を受けた場合の対応について
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	健康科学	指導担当者名	根本 香帆
実務経験	病院やジムで理学療法士として勤務		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己の体力増進や健康管理ができる。</li> <li>・指導者として自己や周囲の人への運動処方が考えられるようになる。</li> <li>・救命救急措置や熱中症などの知識を深め、その対策や指導力身につける。</li> <li>・生涯における健康な生活設計への自己の認識を確率し実践できるようになる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	オリエンテーション	健康科学とは
	2	現代社会における体育教育	教育と体育・体育の立場から見た人間の発達
	3	現代社会と健康	わが国の健康と社会
	4	運動の生理	呼吸・循環・筋肉・神経・内分泌
	5	運動の基礎理論	体力の概念・トレーニング理論・ウォーミングアップとクーリングダウン
	6	生活と運動	現代生活と運動不足・生活習慣病・ダイエット
	7	運動処方	メディカルチェック
	8	健康な生活の設計	薬物・アルコール・たばこと健康・ストレス・青少年の性とエイズ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	スポーツ(実技)	指導担当者名	根本 香帆
実務経験	病院やジムで理学療法士として勤務		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: 一	実習: 〇 実験: 一
単位数	1 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バレーボール・バドミントン・バスケットボールを仲間とともに楽しみ、技術的に上達し、ルールを理解し審判ができるようになるとともに試合運営ができるようにする。</li> <li>・こどもの運動遊びの指導ができるようにする。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	オリエンテーション	スポーツ実技の受講心構えとスポーツ競技運営について学ぶ
	18	準備運動・ストレッチ	準備運動やストレッチの仕方を学び実践する
	19	バスケットボール	ルールの説明、基礎技能
	20		グループ練習・試合
	21	バレーボール	ルールの説明、基礎技能
	22		グループ練習・試合
	23	卓球	ルールの説明、基礎技能
	24		グループ練習・試合
	25	バドミントン	ルールの説明、基礎技能
	26		グループ練習・試合
	27	幼児体育	こどもの運動遊び 体操
	28		こどもの運動遊び 体ひとつで楽しくあそぼう
	29		こどもの運動遊び 身近なもので楽しくあそぼう
	30		こどもの運動遊び 運動遊具で楽しくあそぼう
31	まとめ	まとめ	
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプラン I	指導担当者名	後藤 祐美
実務経験	幼保連携型認定こども園にて保育教諭として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者としての立ち居振る舞い、資質を磨く。</li> <li>・社会人としての立ち居振る舞い、資質を磨く。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  通年	1	オリエンテーション	自己紹介・親睦を深める
	2	保育者とは	保育者としての心構え
	3		保育者の身だしなみ・服装など
	4		保育者として成長するために
	5		コミュニケーション能力を磨くために
	6		コミュニケーション技法を使った実践
	7	保育者として	保護者対応とは
	8		電話対応の仕方と実践
	9		病気やケガや事故の対応
	10		礼状の書き方
	11	ビジネスマナー	席次など
	12		SNS・Facebook・LINE・twitterについて
	13	社会人として	社会人としての一般常識の理解、心得
	14	実践実技	社会人としてのおもてなし
	15	保育者として	安定した心の保ち方
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論 I	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話すことの重要性、自分の考えを正しく伝えることの大切さを再認識し、様々なシーンでの話し方を習得する。</li> <li>・「聞く」ことがコミュニケーションにおいて果たす役割を理解し、傾聴・受容する姿勢を身につける。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	コミュニケーション	出会い・第一印象・自分の良いところ探し
	2		コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとろう
	3	コミュニケーションの基本を身につけよう	コミュニケーションと話し上手・挨拶
	4		正しい言葉遣いと敬語
	5	話すときの心構えを理解しよう	聞き手を意識した心構え、話題の広げ方
	6	効果的な話し方を身につけよう	効果的に話すとは 話の構成
	7	実践	子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	8		子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	9	効果的な表現力を身につけよう	目線・アイコンタクト
	10		表現力を高めるジェスチャー
	11	実践	子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	12		子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	13	聞くことの重要性	聴き上手になる話しの聴き方
	14		話しを促進する聴く技術
	15	実践	コミュニケーション技法を使った実践
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こども健康	指導担当者名	圓谷 厚子
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1.健康とは何かについて理解することができる 2.子どもの発育・発達について理解し、具体的な活動について学習する 3.子どもの健康について望ましい環境を考えることができる 4.子どもの環境、活動における安全について考え、リスクとハザードについて理解することができる		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	フレーベル館 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	オリエンテーション 健康の理解	オリエンテーション 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育保育要領保育教育の領域健康の理解
	2	乳幼児の心身の発育発達	保育の意義と健康観 子どもを理解する
	3	乳幼児の心身の発育発達	幼児期の形態的発育・機能的発育・発育発達に応じた保育、保育課程変遷の基本
	4	子どもの心の健康	心も発達とストレスのサイン
	5	基本的な生活習慣の獲得	幼児の生活スタイルの現状と問題点
	6	子どもの遊びの発達と健康	幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割
	7	安全管理と安全教育	交通安全指導、避難訓練
	8	健康と自然環境	園外保育の活動内容
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こどもと人間関係	指導担当者名	國分 千恵
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する</li> <li>・乳幼児期の人間関係の発達について理解する</li> <li>・保育現場における「人間関係」の指導のあり方の理解</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布等		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	領域「人間関係」	ねらいと内容の考え方 取扱いについて
	2	人間関係を取り巻く社会環境	少子高齢化 家族の変化
	3		身近な環境の変容 メディアの変化
	4	人間関係をつむぐ子どもの発達	規範意識と道徳の芽生え
	5		子どもの自立心の育ち 協働性の芽生え
	6	人間関係と子どもの遊び	遊びの中で育つ乳幼児の人間関係
	7	人間関係と子どもの生活	家庭と地域とのかかわりと子どもの発達
	8	今日的な人間関係の課題	多様な文化の子ども 気に留めたい子ども
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こどもと環境	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の発達を理解する</li> <li>・言葉の発達を促す条件や環境について自ら考える力を身につける</li> <li>・言葉の保育についての基礎的な知識を身につける</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布等		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	オリエンテーション 領域「言葉」	幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本、しくみ、言葉の領域
	2	こどもの言葉の発達	乳幼児の言葉の発達
	3	言葉を豊かに育む活動①	言葉あそびの実践による保育体験
	4	言葉を豊かに育む活動②	文字体験、制作等による体験実践
	5	言葉を豊かに育む活動③	言葉の指導案作成
	6	保育者の言葉の在り方	言葉の遅れや障害を持つ乳幼児のとらえ方、支援
	7	計画と連携の大切さ	言葉の計画と保育施設と小学校との連携
	8	総まとめ	言葉についてのまとめ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こどもと表現 I	指導担当者名	齋藤 由香
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: 〇	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に、保育現場で用いられている楽曲を題材にしなが、音楽的な基礎知識が理解できる</li> <li>・基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムで関わる事が可能となる</li> <li>・基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、鍵盤楽器を中心とした楽器をアンサンブルすることによって、展開できるようになる</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	オリエンテーション 音楽理論	音のしくみについて
	18	基礎演習 I	ピアノ 課題曲練習
	19		ピアノ 課題曲練習
	20		ピアノ 課題曲発表
	21		ソルフェージュ 課題曲練習
	22		ソルフェージュ 課題曲練習
	23		ソルフェージュ 課題曲発表
	24	まとめ	実践演習
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こどもと表現Ⅱ	指導担当者名	齋藤 由香
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	1単位	総時間	15時間 週時間数 1時間
学習到達目標	<p>1.保育者にとって必要な音楽的基礎技能の養成を目指した「こどもと音楽Ⅰ」に続き、より高度な目標を持って、授業を展開することにより、ピアノ演奏技術の習得や弾き歌いする力の習得ができるようになると同時に、それを保育現場に活かす応用力、音楽的感性を培うことができる</p> <p>2.近年、多くの保育士及び、幼稚園教諭の採用試験で課題として課せられる、「原譜による弾き歌い」や「初見視奏」に対応しているため、原譜を弾きこなす力や即興力がつく</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	オリエンテーション	授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明
	2	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	3	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	4	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	5	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	6	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	7	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	8	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	9	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	10	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	11	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	12	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	13	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	14	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	15	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	16		
<p><b>履修上の留意点</b>  出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。  対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こどもと表現Ⅲ	指導担当者名	齋藤 由香
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に、保育現場で用いられている楽曲を題材にしながら、音楽的な基礎知識が理解できる</li> <li>・基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムで関わる事が可能となる</li> <li>・基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、鍵盤楽器を中心とした楽器をアンサンブルすることによって、展開できるようになる</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	オリエンテーション 音楽理論	音のしくみについて①
	18	音楽理論	音のしくみについて②
	19		楽器について①(鍵盤ハーモニカ)
	20		楽器について②(鍵盤ハーモニカ)
	21		楽器について①(打楽器)
	22		楽器について②(打楽器)
	23	子どもの身近な楽器とその演奏方法アンサンブル	鍵盤楽器、小物等の楽器等、アンサンブル譜の読み方の理解と演奏練習
	24	子どもの身近な楽器とその演奏方法アンサンブル	鍵盤楽器、小物等の楽器等、アンサンブル譜の演奏練習、発表(グループ)
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こどもと言葉	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験： 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義：一	演習：◎	実習：一 実験：-
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1.言語で表現する事柄の具体的な内容の理解を深める 2.協力して活動する力を身につける 3.保育者として必要な言語力を身につけ、活用できる		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	保育者になるための国語表現 萌文書林		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	オリエンテーション 言葉の成長・発達・言葉の習得	年齢に応じた言葉の習得、言葉の大切さ
	2	児童文化財とは何か	種類、魅力、保育への活用方法
	3	児童文化財①	お話、素話の特徴、演じ方、留意点他
	4	児童文化財②	絵本、紙芝居の特徴、種類、演じ方、留意点他
	5	児童文化財③	ペープサートの特徴、しかけ、演じ方、留意点他
	6	児童文化財④	パネルシアターの特徴、しかけ、演じ方、留意点他
	7	言語表現による指導法	言語表現の方法、重要性
	8	総まとめ	言語表現についてのまとめ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育内容総論	指導担当者名	園谷 厚子
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と「ほいくのないよう」の関連を理解する。 2. 保育所保育士氏の各省のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 3. 子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史の変遷等をふまえ、保育の内容の基本的な考え方を子どもの発達や実態に即した具体的な保きの家庭(計画・実践・記録・省察・評価・改善)につなげて理解する。 4. 保育の多様な展開について具体的に理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	豊岡短期大学「保育内容総論」 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	オリエンテーション 保育内容総論とは	授業内容と評価方法その他 はぐくみたい資質。能力と幼児期の終わりまでに育って欲しい姿
	18	保育内容の歴史の変遷	平成の保育内容の変遷と今後の課題
	19	改訂された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育。保育要領における保育内容の捉え方	幼稚園教育要領とは 保育所保育指針とは 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
	20	乳幼児にふさわしい生活と保育内容	乳幼児にとっての園教の意味とあり方
	21	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開	遊びによる総合的な保育
	22	全体的な計画の作成と指導計画の作成	全体的計画の作成・指導計画の作成
	23	保育の評価と保育の記録	子どもの理科気に基づく評価
	24	保育内容の現代的課題 まとめ	子育て支援 特別な配慮を必要とする子どもの保育
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	音楽表現(ピアノ)	指導担当者名	齋藤 由香	
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事		実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年	
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一	実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノの演奏法の基礎的な知識・技術を習得できることを目標とする。</li> <li>・課題曲をしっかりと練習し、演奏技術・表現力を磨く</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業計画	1	オリエンテーション	授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明	
	2	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認	
	3	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認	
	4	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認	
	5	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認	
	6	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認	
	7	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認	
	8	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認	
後期				
履修上の留意点				
出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。				
対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	音楽表現(声楽)	指導担当者名	齋藤 由香
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: 〇	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的に、保育現場で用いられている楽曲を題材にしながら、音楽的な基礎知識が理解できる</li> <li>・基礎知識を応用しながら、幼児用楽曲を簡易伴奏の形で編曲する技術を身につけることにより、こどもにリアルタイムで関与することが可能となる</li> <li>・基礎知識を応用しながら、こどもと共に楽しむ事のできる音楽活動を、鍵盤楽器を中心とした楽器をアンサンブルすることによって、展開できるようになる</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	オリエンテーション 音楽理論	音のしくみについて
	18	基礎演習 I	ピアノ 課題曲練習
	19		ピアノ 課題曲練習
	20		ピアノ 課題曲発表
	21		ソルフェージュ 課題曲練習
	22		ソルフェージュ 課題曲練習
	23		ソルフェージュ 課題曲発表
	24	まとめ	実践演習
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
	31		
	32		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	造形表現	指導担当者名	大町 亨
実務経験	専門学校や絵画教室で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1.素材・技法に関する基本的な理解をもつ 2.保育者としての造形表現力を深め、造形表現活動の援助に必要な実践力を身につける		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	萌文書林 保育をひらく造形表現		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	造形表現の意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分を感じる一身体感覚を豊かにする</li> <li>・感性をみがく一環境とのかかわりを深める</li> </ul>
	18		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心をひらく一ありのままである自由感</li> <li>・課題 カッターナイフで鉛筆を削り、スケッチブックに自分をデッサンしよう</li> </ul>
	19	造形を楽しむための造形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・点と線を遊ぶ ・空間のマジック ・色の探検</li> <li>・形の発見・錯覚の再発見 ・版の不思議</li> <li>・紙の変身一平面と立体 ・紙の技一伝える・演じる</li> <li>・課題 折り紙制作</li> </ul>
	20		
	21	子どもの造形表現の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ製作活動・造形表現の発達論</li> <li>・子どもの描画の特徴とその背景</li> <li>・発達に即した援助と発達過程に見られる個人差</li> <li>・課題 子どもが友だちと遊んでいる風景</li> </ul>
	22		
	23	造形表現指導の実際	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導のねらい ・保育者の役割</li> <li>・指導形態</li> <li>・間接的、直接的な援助</li> </ul>
	24	造形表現指導の実際	
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	身体表現	指導担当者名	後藤 祐美
実務経験	幼保連携型認定こども園にて保育教諭として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: 〇	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊び（集団遊び・競争遊び・素材を使った遊び・用具器具を使った遊び）などを考え、学生を園児に見立て、グループで考案した運動遊びが指導できる</li> <li>・遊具の安全性についての認識を深め、こどもたちが安全に遊べる指導ができる</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	オリエンテーション	授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明
	2	こどもの発育発達	身体の発育発達 機能の発育発達 心の発育発達
	3	こどもと運動	乳幼児期の発達段階と運動 運動と人格的な発達
	4	こどもの動作の発育発達	動作の発達 運動発達のロバストネス
	5	こどもと環境	遊び環境の現状 こどもの遊びの世界
	6	運動遊びにおける援助者の役割	人的環境を整える 安全管理と安全教育
	7	運動遊びの実際	運動遊びの意義 遊具を使わない遊び 遊具を使う遊び
	8	こどもの遊びと遊具・園外保育と野外活動	遊具の種類と分類 遊具と運動機能・園外保育の意義 野外活動の意義
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	言語表現	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1.言語で表現する事柄の具体的な内容の理解を深める 2.協力して活動する力を身につける 3.保育者として必要な言語力を身につけ、活用できる		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	保育者になるための国語表現 萌文書林		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	オリエンテーション 言葉の成長・発達・言葉の習得	年齢に応じた言葉の習得、言葉の大切さ
	2	児童文化財とは何か	種類、魅力、保育への活用方法
	3	児童文化財①	お話、素話の特徴、演じ方、留意点他
	4	児童文化財②	絵本、紙芝居の特徴、種類、演じ方、留意点他
	5	児童文化財③	ペープサートの特徴、しかけ、演じ方、留意点他
	6	児童文化財④	パネルシアターの特徴、しかけ、演じ方、留意点他
	7	言語表現による指導法	言語表現の方法、重要性
	8	総まとめ	言語表現についてのまとめ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	教育原理		指導担当者名	原 澄江	
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	幼児教育・大学科 1年	
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の意義、目的及び児童福祉等との関りについての理解</li> <li>・教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論についての理解</li> <li>・教育の制度についての理解</li> <li>・教育実践のさまざまな取り組みについての理解</li> <li>・生涯学習社会における教育の現状と課題についての理解</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	シリーズ知のゆりかご いまがわかる教育原理				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	教育の意義	保育者になるための教育と学び 教育とは何か		
	2	教育の目的	教育の目的の歴史 法律から見る教育の目的		
	3	教育と福祉のつながり	教育と福祉の関係 福祉職としての保育 子育て支援と少子化対策		
	4	人間形成と家庭・地域・社会	「家庭と連携すること」ということ 「地域・社会と連携すること」ということ		
	5	教育制度の基礎	西洋の教育制度 日本の教育制度		
	6	さまざまな国の教育思想家たち	コメニウス ルソー ペスタロッチ フレーベル モンテッソーリの教育について		
	7	日本の教育思想と歴史	近代以前の日本の教育 日本の近代教育制度の確立期 教育の民営化		
	8	近代教育成立の歴史	公教育の3つの原則 近代公教育制度の確立		
	9	子ども観と教育観の変遷	子ども観、教育観とは何か		
	10	教育行政および学校経営の基礎	教育行政の基盤にある法的枠組み		
	11	保育・教育実践の基礎理論	保育・幼児教育の内容 保育形態		
	12	教育実践の基礎多様な取り組み	新しい時代の教育 多様な教育実践		
	13	生涯学習社会と教育	生涯学習の取り組み		
	14	現代の教育課題	教育における多様性		
	15	まとめ	教育原理について振り返り		
	16				
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育原理	指導担当者名	後藤 祐美
実務経験	幼保連携型認定こども園にて保育教諭として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の意義及び目的について理解する。</li> <li>・保育所保育指針の保育の基本について理解する。</li> <li>・わが国における保育に関する法令及び制度を理解する。</li> <li>・保育所の歴史的変遷について理解する。</li> <li>・保育現状と課題について考察する。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	みらい つながる保育原理		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	講義の概要と趣旨 保育原理とは
	2	第1章 保育の原理 保育の根っこにあるもの	保育の理念と概念
	3	第2章子 どもの育ち子どもとは、発達とは	発達の原理
	4	第3章 保育の行われている場所 保育施設をめぐる仕組み	主な施設の種類—施設型保育
	5	第4章 保育の基本 保育所保育指針をもとに	保育所保育指針の制度的位置づけ
	6	第5章 乳児のねらいと内容と方法 乳児と1.2歳児	3歳未満児の保育をめぐる現状
	7	第6章 保育のねらいと内容と方法 3歳以上児	3歳以上児の保育をめぐる状況
	8	第7章 乳幼児の終わりまでに育てて欲しい姿 小学校との接続	子どもの発達と学びの連続性
	9	第8章保育の計画 教育課程・全体的な計画とカリキュラム・マネジメント	保育における計画とは
	10	第9章 保育の専門家への道 これからの保育者論	保育者に求められる専門性
	11	第10章 子育て支援 保護者と地域とのコミュニケーション	子育てをめぐる家庭と社会の状況
	12	第11章 海外の保育思想と歴史	海外の保育思想と歴史を学ぶ意義
	13	第12章 日本の保育思想と歴史	古代から昭和までの保育
	14	第13章 保育の現状と課題	世界と日本の保育の現状と課題
	15	まとめ	総復習
	16		
<p><b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	教職論	指導担当者名	原澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: -	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<p>公教育の目的と教職の社会的意義について理解できる。 今日の教員の役割や資質能力について説明できる。 組織的に諸課題に協働する教員をめざそうとする意欲をレポートすることができる。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	和田幸司『学級だよりのエール』みらい		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション:教員を取り巻く現代的な状況	受講者の児童生徒の際の経験や新聞雑誌などの報道から、教師の仕事について考える。
	2	学校教育や教職の意義	教職とはどういうものか、教職に就いて何をしようとするのか、などについて考える。
	3	教員養成の歴史	教員養成制度の戦前から戦後への変遷および今日の教員免許制度改革の動向について学ぶ。
	4	教員に求められる資質能力(1):いつの時代も求められる資質能力	「いつの時代も求められる資質能力」とは何かを考究する。
	5	教員に求められる資質能力(2):時代の要請から求められる資質能力	「時代の要請から求められる資質能力」とは何かを考究する。
	6	教員の研修(1):研修制度と具体例	教員の研修について法的根拠をもとに具体的に学ぶ。
	7	教員の研修(2):学び続けることの意義	「学び続ける教師」とは何かを考究する。
	8	教員の役割と仕事(1):日常業務と年間指導計画	教師の毎日の業務と年間指導計画について概説する。
	9	教員の役割と仕事(2):教科指導	教科指導の基礎基本について学ぶ。
	10	教員の役割と仕事(3):生活指導	生活指導の基礎基本について学ぶ。
	11	教員の役割と仕事(4):保護者・地域との連携	保護者や地域との密接な連携方法について学ぶ。
	12	任用と服務	各種法令に準じて、任用と服務関係の全般を理解する。
	13	教員の職場環境	校集団と教員の職場環境について概説する。
	14	チーム学校への対応	15.教職への進路
	15	教職への進路	教師の人的成長と教育活動がつながることを学ぶ。
	16		
<p><b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	発達心理学	指導担当者名	富森 崇
実務経験	学校でのカウンセリングや発達障害のこどもたちの支援に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<p>発達概念及び教育における発達理解の意義を説明できる。 乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を説明できる。 代表的な学習理論について説明できる。 主体的学習を支える動機づけ、集団作り、学習評価の在り方について、発達の特徴と関連づけて述べるができる。 こどもの心身の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を述べるができる。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	発達心理学 小河晶子・西本 望・西本佳子 姫路大学教育学部通信教育課程		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	発達とは	オリエンテーション 授業の受け方 発達の概念、発達の原理について学びます。
	2	発達課題①	ハーヴィガースト、フロイトの発達課題の特徴について学びます。
	3	発達課題②	エリクソンの発達段階の各段階について学びます。
	4	遺伝と環境	遺伝と環境に関しての主な説を学びます。
	5	身体、運動、知覚能力の発達	原始反射から粗大運動、巧緻運動の発達および視覚、聴覚の発達について学びます
	6	知的機能の発達	ピアジェの認知発達論を中心に知的機能の発達を学びます。
	7	ことばとコミュニケーションの発達	どのようにしてことばを覚え、コミュニケーションできるようになるのかを学びます。
	8	愛着性の発達	愛着性の形成と剥奪 復習: 愛着性の発達についてレジメに基づきまとめる(2時間)。
	9	自己概念	自己概念 自分というものをどのように認識していくのかについて学びます。
	10	自己主張、自己統制の発達	自己主張と反抗期、自己統制について学びます。
	11	感情の発達	感情の発達について学びます。
	12	社会性の発達	人間関係を形成したり、維持していく能力の発達について学びます。
	13	道徳性の発達	道徳性の発達について学びます。 こどものうそへの対応を学びます。
	14	学習理論・動機付け・学習評価	動機づけ、集団づくり、学習評価の在り方について こどもの主体的な学習活動を支える指導について
	15	これまでの復習	第1回～第14回のまとめをします。
	16		
<p><b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	発達心理学	指導担当者名	富森 崇
実務経験	学校でのカウンセリングや発達障害のこどもたちの支援に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	各発達段階の心身の発達の過程を理解し、その特徴を説明することができる。 各発達段階の発達課題を説明することができる。 各発達段階のエリクソンの心理社会的発達危機を理解し、適切な支援の在り方を述べるすることができる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	適宜、プリントを配布します。		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	発達とは	発達心理学について説明し、各発達段階について概観する
	18	出生前期、新生児期の発達	出生前期、新生児期の発達の様相、原始反射等について解説する
	19	乳児期の発達と発達課題	乳児期の発達課題から、乳児期の発達の特徴、愛着形成について解説する
	20	幼児期の発達	幼児期前期の発達の特徴と幼児の行動の理解を深める
	21	幼児期の発達課題	幼児期の発達の特徴を踏まえ、幼児期の発達課題、および、発達を支援する対応について考える
	22	児童期の発達と発達課題	児童期における道徳性、社会性、学習の発達を解説し、児童期の発達課題、および児童期に生じやすい問題について考える
	23	発達障がいを抱える子どもの理解	発達障がいについての知識を得る
	24	発達障がいを抱える子ども、および、その保護者への対応	発達障がいを抱える子どもの心の理解、および、保護者の理解を深める
	25	思春期、青年期の発達と発達課題①	思春期、青年期の心身の発達、発達課題について学ぶ
	26	思春期、青年期の発達と発達課題②	思春期、青年期に生じやすい心の病について学ぶ
	27	成人前期の発達と発達課題	成人前期の発達課題から、成人前期の適応、および適応を促進する要因について考える
	28	中年期の発達と発達課題	ライフサイクルの視点から中年期の発達について考える。発達課題を理解し、中年期危機がなぜ生じるのかを考え、それに対するサポートのあり方を考える
	29	老年期の発達と発達課題	老年期に上昇する力、下降する力を考え、老年期の心身の発達について解説するとともに、老年期の喪失について理解し、老年期の発達課題の意味を考える
	30	認知症	認知症についての知識を得、援助の在り方を考える
31	死について まとめ	各発達段階における心身の発達を概観し、ライフサイクルから見る人間の発達を考える	
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	教育心理学	指導担当者名	富森 崇
実務経験	学校でのカウンセリングや発達障害のこどもたちの支援に従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習・人格・適応・発達・評価という教育心理学の基礎的な事項を理解し、その特徴を説明することができる。</li> <li>・教育・保育場を心理学の観点から見つめ分析することで、理解を深めることができる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	学びと教えて育つ心理学-教育心理学入門-/小林芳郎編著/保育出版社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	オリエンテーション	教育心理学の領域と目的・研究方法
	18	こどもの発達①	発達の原理と段階
	19	こどもの発達②	発達の諸相と教育/遊びの発達
	20	こどもの学び①	学習理論/条件付け
	21	こどもの学び②	動機づけ/原因帰属
	22	どのように教えるか①	学習指導と援助法/適性処遇交互作用
	23	どのように教えるか②	発見学習/プログラム学習
	24	学級集団での学び	学級集団の働きとその指導
	25	パーソナリティ	類型論/特性論/精神分析理論
	26	適応①	適応とは何か/欲求とその種類
	27	適応②	欲求不満と機制
	28	評価する①	教育評価の意義と方法
	29	評価する②	いつ評価するか:診断的評価・形式的評価・総括的評価
	30	発達とところへの援助①	発達の傷害とその支援
31	発達とところへの援助②	カウンセリングとカウンセリングマインド	
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	教育課程論	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事-		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: -	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育におけるカリキュラムの概念、とらえ方を歴史的、理論的に学習しながら、保育カリキュラムの編成の意義、内容、方法について理解することを目的とする。</li> <li>・「保育所保育指針」の理解、保育(教育)課程と指導計画など多様な保育の計画の種類とその内容などの学習をすすめ、保育カリキュラム編成の基本を理解する。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	みらい 教育・保育カリキュラム論		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	カリキュラムとは	・保育者になるために
	2	教育・保育に大切なこと	・教育とは・保育のしくみ
	3	教育の歴史を考える	・日本と世界の教育の変遷の違い
	4	よりよいカリキュラムを構想する為に	・カリキュラム構想と保育改善 ・保育の方法と技術
	5	保育所保育指針をもとに考える	・保育所保育指針などのポイントと共通点
	6	教育課程・全体的な計画の編成・作成	・教育課程・全体的な計画の必要性 ・構成要素、作成の基本
	7	指導計画の書き方作成	・指導計画の必要性、生活の連動制
	8	指導計画の作成のポイント	・指導計画を作成上の留意事項
	9		・年齢別配慮事項
	10	カリキュラム・マネジメントと保育の評価	・保育の記録及び省察 ・自己評価
	11	計画の実際	・保育所(0-3歳)の指導計画
	12		・幼稚園(3-6歳)の指導計画
	13		・認定こども園の指導計画
	14		・異年齢保育の指導計画
	15	まとめ	・保育者になるために
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	教育方法論	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事-		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と「ほいくのないよう」の関連を理解する。 2. 保育所保育士氏の各省のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション 保育内容総論とは	授業内容と評価方法その他 はぐくみたい資質。能力と幼児期の終わりまでに育って欲しい姿
	2	保育内容の歴史の変遷	平成の保育内容の変遷と今後の課題
	3	改訂された幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容の捉え方	幼稚園教育要領とは 保育所保育指針とは 幼保連携型認定こども園教育・保育要領
	4	乳幼児にふさわしい生活と保育内容	乳幼児にとつての園教諭の意味とあり方
	5	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開	遊びによる総合的な保育
	6	全体的な計画の作成と指導計画の作成	全体的計画の作成・指導計画の作成
	7	保育の評価と保育の記録	子どもの理科気に基づく評価
	8	保育内容の現代的課題 まとめ	子育て支援 特別な配慮を必要とする子どもの保育
	9	指導計画の書き方作成	・指導計画の必要性、生活の連動制
	10	指導計画の作成のポイント	・指導計画を作成上の留意事項
	11		・年齢別配慮事項
	12	カリキュラム・マネジメントと保育の評価	・保育の記録及び省察 ・自己評価
	13	計画の実際	・保育所(0-3歳)の指導計画
	14		・幼稚園(3-6歳)の指導計画
	15	まとめ	・様々な保育の方法について
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	社会福祉論	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び、社会福の制度や体系について理解する。</li> <li>・社会福祉と児童福祉、子どもの人権や家族支援との関係について理解する。</li> <li>・社会福祉における相談援助の意義や方法を理解する。</li> <li>・社会福祉における利用者や社会福祉の紺人的動向について理解する。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	新基本保育シリーズ4 社会福祉		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	社会福祉の理念と歴史の変換	1.社会福祉の概念と理念 2.歴史の変換と現代的課題
	18	こども家庭福祉と社会福祉	1.社会福祉の専門職としての保育士 2.家庭支援と支援活動
	19	社会福祉の制度と法体系	1.法律と制度、活用
	20	行財政と実施機関	1.社会福祉行政と福祉事務所 2.福祉の財政と社会福祉施設
	21	社会福祉の専門職	1.専門職の構造 2.社会福祉に関する資格
	22	社会保障および関連制度	1.社会保障制度 2.分野別保障と役割
	23	福祉六法	1.福祉六法と仕組み
	24	相談援助の理論、意義	1.相談援助の体系化 2.特徴、原則、意義と機能
	25	相談援助の対象と過程	1.保育における相談援助
	26	相談援助の方法と技術	1.相談援助の体系化方法・技術への理解の必要性 2.援助技法
	27	社会福祉における利用者の保護にかかわる仕組み	1.権利擁護 2.情報提供と情報公開
	28	少子高齢化社会における子育て支援	1.少子高齢化の現状と課題
	29	共生社会の実現と障害者施策	1.障害の捉え方 2.インクルージョンの理念
	30	在宅福祉・地域福祉の推進	1.地域福祉の理念 2.保育所における子育て支援の機能と特性
31	諸外国の社会福祉動向	1.社会福祉と福祉国家 2.諸外国の歴史と動向	
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	社会的養護 I	指導担当者名	高橋 陽佳		
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年		
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護問題の発生と現代家庭の現状を理解する。</li> <li>・児童福祉施設の役割と援助の実際を理解する。</li> <li>・社会的養護の原理と原則を理解する。</li> <li>・児童福祉施設で働く保育士としての役割や技術を学ぶ。</li> </ul>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	みらい×子どもの福祉 ブックス 社会的養護 I				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画  後期	17	社会的養護の基本原理とその現状	1.社会的養護とは何か 2.基本理念と原理、現状		
	18	社会的養護の歴史	1.社会的養護の歩み(日本)		
	19		2.社会的養護の歩み(外国)		
	20	子どもの権利擁護	1.こどもの権利、取り組み		
	21	社会的養護の体系と実践	1.社会的養護に関わる法律 2.施設養護と家庭養護		
	22	社会的養護の領域	1.乳児院 2.母子生活支援施設		
	23		3.児童養護施設		
	24		4.児童心理治療施設 5.自立援助ホーム		
	25		6.里親 7.ファミリーホーム		
	26		8.障害児入所施設 9.児童発達支援センター		
	27	社会的養護に関わる専門職・専門機関と倫理	1.社会的養護に関わる専門職		
	28		2.専門機関と連携		
	29	社会的養護とソーシャルワーク	1.ソーシャルワークの必要性		
	30		2.ケースワークとグループワーク		
31	施設の運営管理	1.施設運営			
32					
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>					

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育者論	指導担当者名	後藤 祐美
実務経験	幼保連携型認定こども園にて保育教諭として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の制度的位置づけを理解し、専門性について考え理解する。</li> <li>・今日的課題としての諸問題について考慮し理解する。</li> <li>・保育者の専門職成長について理解する。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	みらい 子どものかたわらに		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	オリエンテーション	保育者とは、保育者論とは何か
	2	第1章 保育の日常と保育者になるための学び	保育者の一日
	3	第2章 保育職とは	魅力的な保育者とは
	4	第3章 現代の保育にまつわる問題	少子化・待機児童の問題
	5	第4章 保育者の役割を考える	保育者の仕事・職務内容
	6	第5章 専門家として子どもと関わる	子どもの遊びと育ち
	7	第6章 保育のプロセスと質の向上	保育の計画と必要性
	8	第7章 行事の意義と役割	なぜ 行事 は必要なのか
	9	第8章 保護者や家庭との連携	子どものより良い育ちの為に
	10	第9章 関連機関や地域との連携	幼稚園、保育所と小学校の連携
	11	第10章 失敗から学んでいく	ベテランと新人の違いは
	12	第11章 保育者のライフデザインを考える	保育者の就業状況
	13	第12章 これからの保育のために	先達の保育の実践から学ぶ
	14	保育者になるために	事例から学ぶ、考える
	15	まとめ	総復習
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育の心理学	指導担当者名	富森 崇
実務経験	学校でのカウンセリングや発達障害のこどもたちの支援に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実践に関わる子どもの発達の理解ならびに心理学の知識を習得し説明することができる。</li> <li>・心理学的知識・理論・味方・考え方を学び、それらを基礎とした子供理解や人間発達に関する理解を深めることができる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	みらい シリーズ知野ゆりかご 『保育の心理学』		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	子どもの発達	子どもの発達の理解と意義 子どもの発達と環境
	2	子ども親と保育親の変遷	初期体験と生涯発達 子ども親と保育親の変遷
	3	社会情動的発達①	自己の発達 第一次反抗期
	4		情動の発達 情動調整の発達
	5	身体機能と運動の発達	身体的機能の発達 運動機能の発達
	6	認知の発達	ピアジェの発達理論・心の理論・学習理論
	7	言葉の発達	言葉の発達とコミュニケーション
	8	子どもの臨床的問題①	臨床的問題に必要な配慮 障害が明らかになる過程
	9		子どもの発達理解の方法 障害の特徴と対応
	10	乳幼児期の学びに関わる理論①	愛着とは 愛着の発達と援助
	11	乳幼児期の学びに関わる理論 2 遊び	遊びと学び 仲間関係の発達遊びが育む心の発達 ①社会性
	12		遊びが育む心の発達②道徳性 遊びが育む心の発達③想像力
	13	乳幼児期の学びの過程と特性	乳幼児期の学びの過程 乳幼児期の学びの特性
	14	乳幼児期の学びを支える保育	養護と教育が一体的に展開する保育 学びの芽生えを育むために
	15		保護者への支援
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	幼児教育課程論	指導担当名	
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: -	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1 保育の計画及と評価のあり方について説明できる。 2 全体的な計画、教育課程の編成、指導計画の作成手順について具体的に説明できる。 3 子どもの理解に基づく保育の過程を把握し、指導計画が作成できる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	オリエンテーション・保育の計画について	科目の概要についてと授業に取り組む姿勢、評価等について。教育・保育の基本を振り返る。
	2	保育の計画と保育の方法	カリキュラムの構造、保育の方法と技術、環境構成について学ぶ。
	3	保育所保育指針をもとに保育の計画を考える	指針・教育要領等における保育の目標と計画の基本的な考え方を知る。
	4	教育課程・全体的な計画の編成・作成①	教育課程・全体的な計画の必要性と構成要素について学ぶ。
	5	教育課程・全体的な計画の編成・作成②	教育課程・全体的な計画の編成・作成の基本と手順、留意事項について学ぶ。
	6	指導計画の必要性と作成の基本	指導計画の必要性と生活の連続性について学ぶ。
	7	長期の指導計画	長期の指導計画について学ぶ。
	8	短期の指導計画	短期の指導計画について学ぶ。
	9	これまでの授業の振り返り・確認テスト	授業の振り返りと確認テストを実施する。
	10	指導計画作成における留意事項①	乳児・1歳以上3歳未満児の保育における指導計画作成の際の留意事項について学ぶ。
	11	指導計画作成における留意事項②	3歳以上児の保育、異年齢の保育における指導計画作成の際の留意事項について学ぶ。
	12	指導計画作成における留意事項③	計画に基づく保育の柔軟な展開について学ぶ。
	13	指導計画の作成	短期の指導計画作成の仕方を具体的に学び、指導案を作成する。
	14	カリキュラム・マネジメントと保育の評価①	保育の記録及び省察、保育士及び保育所の自己評価について学ぶ。
	15	カリキュラム・マネジメントと保育の評価②	保育の質の向上、保育所児童保育要録について。試験について。
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	幼児教育課程論	指導担当者名	0
実務経験	-	実務経験:	有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科 1年
授業方法	講義: ◎	演習: -	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。          期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	乳児保育 I		指導担当者名	圓谷 厚子	
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事			実務経験:	有
開講時期	後期		対象学科学年	幼児教育・大学科 1年	
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	1. 乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保健所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	中山書店「乳児保育 I・II」				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 後期	17	オリエンテーション 乳児保育とは	乳児保育の目的と意義と乳児保育の歴史の変遷		
	18	乳児保育を取り巻く社会的環境	乳児保育の役割と機能		
	19	乳児保育が営まれる多様な場	保育所における乳児保育/児童福祉施設、地域、における乳児保育、3歳未満児とその過程を取り巻く環境と子育て支援の場		
	20	0歳児の発育発達と保育	0歳児の発育発達/0歳児の保育における援助/と配慮		
	21	1歳児の発育発達と保育	1歳児の発育発達/1歳児の保育における援助/と配慮		
	22	2歳児の発育発達と保育	2歳児の発育発達/2歳児の保育における援助/と配慮		
	23	移行期の子どもへの関わり	2歳児クラスに在籍する3歳児/集団形成への配慮/移行期の環境的配慮		
	24	乳児保育における連携・協働	職員間の連携/保護者殿連携・協働/地域や諸器官との連携・協働		
	25	乳児保育における子本的生活の援助	基本的生活の配慮/乳児保育に適した環境		
	26	乳児保育における健康支援	健康面の配慮・援助/配慮を必要とする子どもへの対応		
	27	乳児保育における衛生・安全	衛生管理と配慮/事故防止と安全対策/災害対策と危機管理		
	28	乳児保育における生活と遊びの実践			
	29	乳児保育における計画と評価	長期的、短期的な指導計画/ディリープログラム/個別の指導計画/記録と評価		
	30	多様性を目指す乳児保育	保育ニーズの多様化委/SDGsから考える乳児保育		
31	乳児保育の基本から応用へ まとめ	子どもと保護者の愛着関係/子どもの主体性と自己の育ち			
32					
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

## 授業計画(シラバス)

科目名	情報処理術 I (基礎)	指導担当者名	井口 義基
実務経験	—	実務経験:	
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1.情報処理技術に関する基礎知識(ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、セキュリティ、社会におけるテクノロジーや人工知能の利活用を含む)を説明できる。 2.PCの基本的な操作(ファイルやフォルダの操作と管理等)ができる。 3.ソフトウェアの基本的な操作(ワープロ、表計算、プレゼンテーション等)を身に付ける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	【図解】AI時代の教師が知っておきたいIT・情報リテラシー 校務DXに必要な基礎知識/ 小林祐紀他/ インプレス		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  前期	1	ハードウェアとコンピュータの構成要素	ガイダンス、コンピュータ、CPU、メモリ、入出力デバイス、タイピング
	2	ソフトウェアとシステム構成要素	OS、ファイルシステム、オフィスツール、Google Work spaceの操作
	3	ワープロソフトの基本操作と演習(1)	起動終了、レイアウト、保存、配置、インデント、タブ、表作成、図形作成、画像挿入
	4	ワープロソフトの基本操作と演習(2)	学級通信、保健通信、園便り、引継ぎ文書等業務文書の作成
	5	プレゼンテーションソフトの基本操作と演習	プレゼンテーションソフトを用いたスライド作成
	6	情報ネットワークとセキュリティ	ネットワーク方式、通信プロトコル、セキュリティ管理、セキュリティ対策
	7	表計算ソフトの基本操作と演習(1)	基本操作、オートフィル、高さ幅の調整、セルの操作、帳票の作成
	8	表計算ソフトの基本操作と演習(2)	番地、相対参照、絶対参照、関数(合計、平均)、会計報告書の作成
	9	表計算ソフトの基本操作と演習(3)	データを説明する、グラフ化、優れた可視化と不適切な誇張表現、グラフの作成 データを扱う、リスト形式、CSV形式、ソート、フィルタ機能、条件付き書式
	10	業務とクラウドソフトウェア演習(1)	クラウドソフトウェアと業務での利活用、ドライブ、オフィスソフト、フォーム、サイト
	11	業務とクラウドソフトウェア演習(2)	マルチメディア対応ソフトウェアを用いた演習
	12	アルゴリズムとプログラミング基礎演習	アルゴリズムの基本構造と記述、プログラム言語、データ構造、プログラミング体験
	13	生成AIの仕組みと利活用	生成AIの仕組み、種類、留意点、利活用の実際
	14	テクノロジーと社会の変化	第4次産業革命、Society5.0、データ駆動型社会、ビッグデータ、IoT、AI、ロボット
	15	講義のまとめ、授業内試験	情報処理に関わる基礎的な知識と技能の復習と確認
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	英語コミュニケーション I	指導担当者名	大澤 秋津
実務経験		実務経験:	無
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	簡単な英語で保育園での保育、保護者対応ができることを目標とする 基本的な英文法を身につける 保育に関する単語や語句を身につける 国際化社会に移行し、保育園の中でも多くの文化がひろがるということを理解できる		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	英語コミュニケーション (豊岡短期大学発行 能勢規子著)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	保育の英語(入園準備)・英文法	自己紹介・授業の内容と課題について・英文法演習(be動詞と一般動詞)
	18	保育の英語(登園・降園)・英文法・翻訳①	英文法演習(否定文と疑問文)・翻訳①
	19	保育の英語(室内遊び)・英文法・翻訳②	英文法演習(単数形と複数形、代名詞)・翻訳②
	20	保育の英語(外遊び)・英文法・翻訳③	英文演習(形容詞と副詞)・翻訳③
	21	保育の英語(病気・ケガ)・英文法・翻訳④	英文演習(疑問詞)・翻訳④
	22	保育の英語(運動・お散歩)・英文法・翻訳⑤	英文法(命令文・感嘆文)・翻訳⑤
	23	保育の英語(食事)・英文法・翻訳⑥	英文法演習(助動詞)・翻訳⑥
	24	保育の英語(着替え・トイレ)・英文法・翻訳⑦	英文法演習(未来形)・翻訳⑦
	25	保育の英語(工作・お絵かき)・英文法・翻訳⑧	英文法演習(不定詞)・翻訳⑧
	26	保育の英語(育児用品)・英文法・翻訳⑨	英文法演習(現在完了形)・翻訳⑨
	27	保育の英語(行事)・英文法・翻訳⑩	英文法演習(受動態)・翻訳⑩
	28	保育の英語(連絡帳)・英文法・翻訳⑪	英文法演習(関係代名詞)・翻訳⑪
	29	レポート対策	レポートのポイントと演習
	30	試験対策	文法演習
31	試験対策	翻訳演習	
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅡ	指導担当者名	後藤 祐美
実務経験	幼保連携型認定こども園にて保育教諭として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者としての立ち居振る舞い、資質を磨く。</li> <li>・社会人としての立ち居振る舞い、資質を磨く。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  通年	1	オリエンテーション	自己紹介・親睦を深める
	2		自己紹介・親睦を深める
	3	保育者として	保育者としての心構え
	4		保育者としての心構え
	5		保育者の身だしなみ・服装など
	6		保育者の身だしなみ・服装など
	7	保育者として	保育者として成長するために
	8		保育者として成長するために
	9		コミュニケーション能力を磨くために
	10		コミュニケーション能力を磨くために
	11		コミュニケーション技法を使った実践
	12		コミュニケーション技法を使った実践
	13		保護者対応とは
	14		保護者対応とは
	15		電話対応の仕方と実践
	16		電話対応の仕方と実践
<p><b>履修上の留意点</b>  出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。  対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅱ	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<p>・話すことの重要性、自分の考えを正しく伝えることの大切さを再認識し、様々なシーンでの話し方を習得する。</p> <p>・「聞く」ことがコミュニケーションにおいて果たす役割を理解し、傾聴・受容する姿勢を身につける。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	コミュニケーション	出会い・第一印象・自分の良いところ探し
	2		出会い・第一印象・自分の良いところ探し
	3	コミュニケーションの基本を身につけよう	コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとろう
	4		コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとろう
	5		コミュニケーションと話し上手・挨拶
	6		コミュニケーションと話し上手・挨拶
	7		正しい言葉遣いと敬語
	8		正しい言葉遣いと敬語
	9	話すときの心構えを理解しよう	聞き手を意識した心構え、話題の広げ方
	10		聞き手を意識した心構え、話題の広げ方
	11	効果的な表現力を身につけよう	効果的に話すとは 話の構成
	12		効果的に話すとは 話の構成
	13	実践	子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	14		子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	15		子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	16		子ども達とコミュニケーションをとってみよう
<p><b>履修上の留意点</b>  出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。  対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育内容「環境Ⅰ」	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の発達を理解する</li> <li>・言葉の発達を促す条件や環境について自ら考える力を身につける</li> <li>・言葉の保育についての基礎的な知識を身につける</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布等		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	オリエンテーション 領域「言葉」	幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本、しくみ、言葉の領域
	2	こどもの言葉の発達	乳幼児の言葉の発達
	3	言葉を豊かに育む活動①	言葉あそびの実践による保育体験
	4	言葉を豊かに育む活動②	文字体験、制作等による体験実践
	5	言葉を豊かに育む活動③	言葉の指導案作成
	6	保育者の言葉の在り方	言葉の遅れや障害を持つ乳幼児のとらえ方、支援
	7	計画と連携の大切さ	言葉の計画と保育施設と小学校との連携
	8	総まとめ	言葉についてのまとめ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<p><b>履修上の留意点</b>  出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。  対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育内容「環境Ⅱ」	指導担当者名	原 澄江	
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年	
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー	実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 幼稚園教育要領・保育指針における領域「環境」のねらい・内容を理解する 2. 幼児の発達や学びの過程を理解し、3つの資質・能力を育むための保育内容や指導・援助を考える 3. 幼児の具体的な指導場面を想定した教材研究や環境構成を構成する方法を身につける			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	資料配布等			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画  後期	1	オリエンテーション 領域「言葉」	幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本、しくみ、言葉の領域	
	2	秋野菜の植え付けとその育ちを体験する (演習)	以後、経過観察毎日(10分)	
	3	身近な植物とのふれあいと遊びを学ぶ (演習)	事前に構内の植物に親しむ(30分)	
	4	身近な虫や小動物に親しむ―図鑑や絵本を使って	事前学習:自身の幼児期の体験を振り返る(30分)	
	5	子ども達にとっての環境と平和教育を考える	事前学習:幼児に必要な環境について考える(30分)	
	6	「3つの資質・能力」「10の姿」の理解と子どもの発達を踏まえた保育	事前学習:幼稚園教育要領・保育所指針を読む(30分)	
	7	領域「環境」のねらい・内容との関連を読み取る―保育環境の様々な工夫を知る	事前学習:幼稚園教育要領 領域(環境)を一読(30分)	
	8	領域「環境」を対象とした指導計画の作成と手順:模擬保育を体験する	事後学習:指導計画を読み取り、ノート記述(30分)	
	9	自然の中での保育の意義を考える	事前学習:教科書を読む(30分) 事後学習:ノート記述(30分)	
	10	自然の中でのリスク管理	事前学習:教科書を読む(30分) 事後学習:ノート記述(30分)	
	11	自然の中でのまとまった活動(集い)	事前学習:教科書を読む(30分) 事後学習:ノート記述(30分)	
	12	虫などの小動物とのかかわり	事前学習:教科書を読んで、自然とのかかわり・生命尊重の意義を考える(30分)	
	13	花や草などの植物を使った遊び	事前学習:教科書を読む(30分) 事後学習:3回目の授業との比較してノート記述(30分)	
	14	火を使った遊び・活動を体験する	事前学習:教科書(木・水・火の活動)を読む(30分)事後学習:ノート記述(30分)	
	15	生涯の環境教育について考える :レイチェル・カーソン 感性の森 DVD視聴	DVDを視聴して、幼児の環境教育についてのレポートを書く	
	16			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育内容「健康 I」		指導担当者名	圓谷 厚子	
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	幼児教育・大学科2年	
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー	実験: ー	
単位数	1 単位	総時間	15 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	1.健康とは何かについて理解することができる 2.子どもの発育・発達について理解し、具体的な活動について学習する 3.子どもの健康について望ましい環境を考えることができる 4.子どもの環境、活動における安全について考え、リスクとハザードについて理解することができる				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	フレーベル館 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画  前期	1	オリエンテーション 健康の理解	オリエンテーション 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育保育要領保育教育の領域健康の理解		
	2	乳幼児の心身の発育発達	保育の意義と健康観 子どもを理解する		
	3	乳幼児の心身の発育発達	幼児期の形態的発育・機能的発育・発育発達に応じた保育、保育課程変遷の基本		
	4	子どもの心の健康	心も発達とストレスのサイン		
	5	基本的な生活習慣の獲得	幼児の生活スタイルの現状と問題点		
	6	子どもの遊びの発達と健康	幼児の遊びを豊かにするための保育者の役割		
	7	安全管理と安全教育	交通安全指導、避難訓練		
	8	健康と自然環境	園外保育の活動内容		
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育内容「健康Ⅱ」		指導担当者名	圓谷 厚子	
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	幼児教育・大学科2年	
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー	実験: ー	
単位数	1 単位	総時間	15 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	① 幼児期の発達特性に応じた効果的な発達を促すための、様々な運動あそびの特質とその指導法についての理解を深めることができる。 ② 幼児期の発達特性に応じた健康的な生活習慣づくりや食育の指導のあり方についての理解を深めることができる。 ③ 保育指導案づくりと模擬保育を通して、情報機器及び教材の活用 ④ を含んだ実践的指導力を高めることができる。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	フレーベル館 『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画  前期	1	オリエンテーション 健康の理解	オリエンテーション 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育保育要領保育教育の領域健康の理解		
	2	幼児期の運動、身体活動(幼児期に向上させたい諸能力、させたい体験)	事前:テキスト(河邊他編著)の第5章を読んでおく。 事後:学習内容を振り返って感想文をまとめる。		
	3	具体例① 鬼あそび系の指導課題を実技で確かめる	事前:前時に配付する学習プリントを読んでおく。 事後:学習内容を振り返りながら模擬保育のための指導案を作成する。		
	4	具体例② かけっこ・じゃんけんの指導課題を実技で確認	事前:前時に配付する学習プリントを読んでおく。 事後:学習内容を振り返りながら模擬保育のための指導案を作成する。		
	5	運動あそびの模擬保育の実施と相互評価①(鬼あそび系)	事前:グループ内で役割分担を決めて模擬保育のリハーサルをしておく。 事後:子ども役になった学生からのアドバイスを生かしながら指導案の修正・加筆。		
	6	運動あそびの模擬保育の実施と相互評価②(かけっこ系)	事前:グループ内で役割分担を決めて模擬保育のリハーサルをしておく。事後:子ども役になった学生からのアドバイスを生かしながら指導案の修正・加筆。		
	7	運動あそびの模擬保育の実施と相互評価③(ジャンケンあそび系)	事前:グループ内で役割分担を決めて模擬保育のリハーサルをしておく。事後:子ども役になった学生からのアドバイスを生かしながら指導案の修正・加筆。		
	8	健康的な生活習慣指導の具体例①(手洗いとうがい指導)	事前:前時に配付する学習プリントを読んでおく。事後:学習内容を振り返りながら模擬保育のための指導案を作成する。		
	9	健康的な生活習慣指導の具体例②(歯磨き指導)	事前:前時に配付する学習プリントを読んでおく。事後:学習内容を振り返りながら模擬保育のための指導案を作成する。		
	10	健康的な生活習慣指導の模擬保育の実施と相互評価①	事前:グループ内で役割分担を決めて模擬保育のリハーサルをしておく。事後:子ども		
	11	健康的な生活習慣指導の模擬保育の実施と相互評価②	事前:グループ内で役割分担を決めて模擬保育のリハーサルをしておく。事後:子ども役になった学生からのアドバイスを生かしながら指導案の修正・加筆をしておく。		
	12	食育指導の具体例①(食べる楽しさを感じさせるための指導課題)	事前:テキスト(河邊他編著)の第9章を読んでおく。事後:学習内容を振り返りながら模擬保育のための指導案を作成する		
	13	食育指導の具体例②(食に対する関心を高めるための指導課題)	事前:前時に配付する学習プリントを読んでおく。事後:学習内容を振り返りながら模擬保育のための指導案を作成する。		
	14	食育の模擬保育の実施と相互評価	事前:グループ内で役割分担を決めて模擬保育のリハーサルをしておく。事後:子ども役になった学生からのアドバイスを生かしながら指導案の修正・加筆をしておく。		
	15	まとめ (保育指導案の修正課題を明確にして改善する)	事前:グループごとに修正・加筆した指導案を共有しておく。事後:グループでまとめた課題を共有しながら最終的な修正指導案を完成させる。		
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育内容「人間関係Ⅰ」	指導担当者名	國分 千恵
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「人間関係」のねらいと内容を理解する</li> <li>・乳幼児期の人間関係の発達について理解する</li> <li>・保育現場における「人間関係」の指導のあり方の理解</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布等		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	領域「人間関係」	ねらいと内容の考え方 取扱いについて
	2	人間関係を取り巻く社会環境	少子高齢化 家族の変化
	3		身近な環境の変容 メディアの変化
	4	人間関係をつむぐ子どもの発達	規範意識と道徳の芽生え
	5		子どもの自立心の育ち 協働性の芽生え
	6	人間関係と子どもの遊び	遊びの中で育つ乳幼児の人間関係
	7	人間関係と子どもの生活	家庭と地域とのかかわりと子どもの発達
	8	今日的な人間関係の課題	多様な文化の子ども 気に留めたい子ども
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育内容「人間関係Ⅱ」	指導担当者名	國分 千恵
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「人間関係」のねらい及び内容、また乳幼児期の人との関わりについて理解し、人との関わりを育てる保育者の援助について考えることができる。</li> <li>・人との関わりを育てる指導案を作成し模擬保育を行うことができる。</li> <li>・グループワークや模擬保育を積極的に行うことができる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布等		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  前期	1	オリエンテーション	シラバスを読む(30分)事後学修:配布資料の復習(30分)
	2	保育の基本と領域「人間関係」	保育所保育指針の該当箇所(授業で説明)を読む(30分)事後学修:配布資料の復習(30分)
	3	0歳児の人との関わりと保育者の役割	保育所保育指針の該当箇所(授業で説明)を読む(30分)事後学修:配布資料の復習(30分)
	4	1～2歳児の人との関わりと保育者の役割	保育所保育指針の該当箇所(授業で説明)を読む(30分)事後学修:配布資料の復習(30分)
	5	3～5歳児の人との関わりと保育者の役割①概観	保育所保育指針の該当箇所(授業で説明)を読む(30分)事後学修:配布資料の復習(30分)
	6	3～5歳児の人との関わりと保育者の役割②個と集団	保育所保育指針の該当箇所(授業で説明)を読む(30分)事後学修:配布資料の復習(30分)
	7	3～5歳児の人との関わりと保育者の役割③仲間との関わり	保育所保育指針の該当箇所(授業で説明)を読む(30分)配布資料の復習(30分)
	8	人との関わりを見る視点(情報機器及び教材の活用)	配布資料を読む(30分)事後学修:配布資料の復習(30分)
	9	遊びの中で育つ人との関わり～指導案作成と模擬保育～	遊びの構想(60分)事後学修:模擬保育の振り返り(60分)
	10	人との関わりを育てる保育の構想Ⅰ～指導案の作成～	遊びの構想(120分)事後学修:指導案の作成(120分)
	11	人との関わりを育てる保育の構想Ⅱ～模擬保育と省察～	模擬保育の練習(120分)事後学修:模擬保育の振り返り(60分)
	12	人との関わりが難しい子どもへの支援(教材研究を含む)	配布資料を読む(30分)事後学修:配布資料の復習(30分)
	13	他領域との関係と小学校のつながり	配布資料を読む(30分)事後学修:配布資料の復習(30分)
	14	人とのかわり育てる周囲の大人	配布資料を読む(30分)事後学修:配布資料の復習(30分)
	15	現代的課題	現代的課題について調べる(120分)事後学修:配布資料の復習(30分)
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育内容「言葉」	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の発達を理解する</li> <li>・言葉の発達を促す条件や環境について自ら考える力を身につける</li> <li>・言葉の保育についての基礎的な知識を身につける</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布等		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画  前期	1	オリエンテーション 領域「言葉」	幼稚園教育要領・保育所保育指針における保育の基本、しくみ、言葉の領域
	2	こどもの言葉の発達	乳幼児の言葉の発達
	3	言葉を豊かに育む活動①	言葉あそびの実践による保育体験
	4	言葉を豊かに育む活動②	文字体験、制作等による体験実践
	5	言葉を豊かに育む活動③	言葉の指導案作成
	6	保育者の言葉の在り方	言葉の遅れや障害を持つ乳幼児のとらえ方、支援
	7	計画と連携の大切さ	言葉の計画と保育施設と小学校との連携
	8	総まとめ	言葉についてのまとめ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<p><b>履修上の留意点</b>  出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。  対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育内容「表現」	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験： 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義：－	演習：◎	実習：－ 実験：－
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1.言語で表現する事柄の具体的な内容の理解を深める 2.協力して活動する力を身につける 3.保育者として必要な言語力を身につけ、活用できる		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	保育者になるための国語表現 萌文書林		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業 計画  前期	1	オリエンテーション 言葉の成長・発達・言葉の習得	年齢に応じた言葉の習得、言葉の大切さ
	2	児童文化財とは何か	種類、魅力、保育への活用方法
	3	児童文化財①	お話、素話の特徴、演じ方、留意点他
	4	児童文化財②	絵本、紙芝居の特徴、種類、演じ方、留意点他
	5	児童文化財③	ペープサートの特徴、しかけ、演じ方、留意点他
	6	児童文化財④	パネルシアターの特徴、しかけ、演じ方、留意点他
	7	言語表現による指導法	言語表現の方法、重要性
	8	総まとめ	言語表現についてのまとめ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	教育制度・行政論	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	日本の教育行政制度と教育財政制度、またその基盤にある法令について理念や実態、課題を体系的に理解することを目的とする。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	株)みらい 演習・保育と相談援助、資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後 期	17	オリエンテーション、日本の教育行政制度の概要	シラバスを読み関心事項を考える
	18	教育に関する法律について	教育基本法の過去と現在
	19	教育に関する法律について	教育の機会均等
	20	教育に関する法律について	義務教育
	21	教育に関する法律について	学校教育
	22	教育に関する法律について	教育の目的と目標
	23	教育に関する法律について	大学について
	24	教育に関する法律について	私立学校について
	25	教育に関する法律について	教員について
	26	教育に関する法律について	家庭教育について
	27	教育に関する法律について	社会教育について
	28	教育に関する法律について	政治教育と宗教教育について
	29	教育に関する法律について	教育行政について
	30	教育に関する法律について	教育振興基本計画について
31	まとめ	講義総括	
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	学校・学級経営異論	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<p>児童が生き生きと意欲的に活動し、学校が楽しいと感じる学級経営を実践的に追求し、身に付けることを目的とする。</p> <p>学級経営上の諸課題、目標、内容、方法等について、過去の知見や現状を理論的に分析・整理し、それに基づいて教員としての立場から学級経営方針を立案し、レポートにまとめることができる。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	株)みらい 演習・保育と相談援助、資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後 期	17	学級経営とは 自身の学級経営をイメージし、軸(思い)を固める	学級経営の理論の理解
	18	子どもと会う前の準備	事前準備の理解
	19	学級開きから最初の1週間	学級開き等の理解
	20	教室環境・教室掲示	教室環境の理解
	21	あいさつ、給食、清掃、昼休み等の指導	諸活動の指導の理解
	22	日常的なトラブル対応 未然防止・初期対応・事後対応のそれぞれ	トラブル対応の理解
	23	学級目標 決め方と扱い方	学級目標の理解
	24	いじめ防止	いじめ防止の理解
	25	特別支援学校のセンター的な機能の発揮と関係 機関との連携	子どもへの接し方の理解
	26	子ども同士のつながりづくり	人間関係づくりの理解
	27	支援を要する子との関わり方	支援を要する子どもの理解
	28	時間意識の育て方	時間意識の育て方の理解
	29	学級通信の意義や方法	学級通信の意義や書き方の理解
	30	席替えの意義や方法	席替えの意義や方法の理解
31	保護者との連携	保護者との連携の理解	
32			
<p><b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	特別支援論	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1.障害児保育の理念や制度、歴史的変遷等、その概要を理解する 2.子どもの抱える様々な障害について理解する 3.統合保育による発達支援の具体的な方法について理解する		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	ライフステージを見通した障害児と特別支援教育 小林徹 栗山宜央編 みらい		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  後期	17	障害とは	障害のある人の歩み
	18		発達と障害と保育・教育 インクルーシブ教育
	19		障害と出会うということは
	20	障害児保育の基本	障害のある子どもの受け入れ 関わり方の基本
	21		環境構成 指導計画の作成と記録・評価
	22	障害の理解と支援	発達障害
	23		知的障害
	24		言語障害 4.肢体不自由
	25		聴覚障害 視覚障害
	26		福祉と教育の視点を
	27	発達を目指したさまざまな連携	地域・職種との連携
	28	小学校との接続	通常学級、通級、特別支援学級への接続
	29	思春期・青年期に向けて	障害のある子どもの生活 合理的配慮
	30	これまでの障害児保育・教育	障害児保育・教育の歴史的変遷
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こども理解の理論と方法	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	(1) 幼児の行動や内面の理解の具体的方法を知り、幅広い捉え方で幼児を理解することができる。 (2) テキストを通しての学びを通して、自身のものの見方、考え方の幅を広げる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	中央法規 基本保育シリーズ 児童家庭福祉		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	幼児理解と保育者の援助	幼児理解と保育者の援助
	18	保育の計画と環境構成	保育の計画と環境構成
	19	幼児の遊びと発達	幼児の遊びと発達
	20	登降園場面における保育者の援助と保護者対応	登降園場面における保育者の援助と保護者対応
	21	幼児の遊びの発展と保育者の援助	幼児の遊びの発展と保育者の援助
	22	協同する経験と保育者の援助	協同する経験と保育者の援助
	23	幼児同士のトラブルと保育者の援助	幼児同士のトラブルと保育者の援助
	24	食育に関する活動と保育者の援助	食育に関する活動と保育者の援助
	25	「障がい児」への理解と援助の方法	「障がい児」への理解と援助の方法
	26	連続性を踏まえた保育と保育者の援助	連続性を踏まえた保育と保育者の援助
	27	家庭との連携と保育者の援助	家庭との連携と保育者の援助
	28	保育者の省察を促すための保育記録	保育者の省察を促すための保育記録
	29	保育者の省察とカンファレンス	保育者の省察とカンファレンス
	30	幼児理解と評価の基本	幼児理解と評価の基本
31	適切な幼児理解と評価のために	適切な幼児理解と評価のために	
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	教育相談	指導担当者名	原澄江	
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年	
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ○	実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 保育, 教育現場で起きている諸問題についての背景や子どもの心を理解し, 教育相談の意義と理論を説明することができる。 2. 教育者の持つべきカウンセリングマインド, 基本的な面接技法を身につける。 3. 子ども, 保護者への対応のあり方について配慮すべき事柄を述べることができる。 4. 教育相談を行う上での連携の必要性, あり方について述べるができる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	『教育相談の理論と方法ーコアカリキュラム対応』 会沢信彦(編) 北樹出版 2019年			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画  前期	1	教育相談とは	学校における教育相談活動と課題を解説する	
	2	教育相談にかかわる心理学の基礎的な理論	代表的な心理療法である精神分析, 認知行動療法, クライアント中心療法について理解する	
	3	教師が持つべきカウンセリングマインド	教育とカウンセリングの違い, 教師の役割とカウンセラーの役割の違いから, 教師が持つべきカウンセリングマインドを考える	
	4	子どもの問題の理解と対応①: いじめの理解	いじめが生じるメカニズムの知識を得る	
	5	子どもの問題の理解と対応②: いじめへの対応	いじめへの対応, いじめを起こさせない予防対策について学ぶ	
	6	子どもの問題の理解と対応③: 登園しぶり・不登校の理解	登園しぶり, 不登校の要因の類型について学ぶ	
	7	子どもの問題の理解と対応④: 登園しぶり・不登校への対応	各型の不登校の要因から対応の仕方を学ぶ	
	8	子どもの問題の理解と対応⑤: 発達障がい理解	発達障がいについての知識を得る	
	9	子どもの問題の理解と対応⑥: 発達障がいを抱える子どもへの対応	発達障がいを抱える子どもと, その保護者への対応, 支援の在り方について考える	
	10	教育相談におけるアセスメント	乳幼児期・児童期・思春期の発達段階の特徴を理解し, 子どもの状態をとらえる視点を学ぶ	
	11	保護者の理解と対応	保護者の相談に対する対応と援助のあり方について考える	
	12	面談の基本的技法	面談の基本的な技法をロールプレイを通して習得する	
	13	先生のメンタルヘルス	先生のメンタルヘルスの現状, ストレスへの対処法を学ぶ	
	14	校内連携	教育相談における各教員の役割を踏まえ, チーム支援のあり方,	
	15	他機関との連携 まとめ	他機関との連携のあり方を理解する 15回の授業を通して, 教育相談のあり方を考える	
	16			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は, 期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は, 遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	教育実践演習	指導担当者名	國分 千恵
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間 30 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	1.保育者としての使命感や責任感を高める。 2.多様な子ども、保護者に対応できるよう社会性や対人関係力を高める。 3.多様な子どもの育ちを的確に理解する力を身につける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  前期	1	保育者という職業	・保育者の意義 ・保育者に求められる資質と能力
	2		・保育者になる-研修・研究の必要性-
	3	クラス経営	・クラスとクラス経営 ・担任の役割
	4		・クラス経営案作成上の留意点
	5	特別支援教育の基礎	・発達障害とは何か ・発達障害の共通点
	6		・発達障害の諸障害及び知的障害の概要
	7	特別支援教育と保育者	・特別な教育ニーズを持つこどもと保護者への対応
	8		・特別な教育ニーズを持つこどもと保護者への対応
	9	保育における集団の編成	・保育者における支援の留意点とポイント
	10		・異年齢保育 ・統合保育
	11		・幼児教育の将来的展望
	12	幼保小連携	・学びと発達の連続性からみた幼保小連携
	13		・幼保小の滑らかな接続の為に
	14	今後の課題	・わたしの課題を文章化する
	15		・子どもの育ちを支える教師・保育士のために
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こども家庭福祉	指導担当者名	高橋 陽佳	
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事			実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学2年	
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー	実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども家庭福祉の歴史的展開と現在を理解する。</li> <li>・子どもの権利について理解する。</li> <li>・児童家庭福祉の基本的な法律と制度を理解する。</li> <li>・子ども家庭福祉の様々な取り組みを理解し、子ども家庭福祉に関わる保育士、専門職としての職務・役割を理解する。</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	中央法規 基本保育シリーズ 児童家庭福祉			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画  後期	17	こども家庭福祉の理念と概念	1.児童家庭福祉の学び方、理解するための方法、基本構造 2.児童という対象の特徴	
	18	歴史的変換と諸外国の動向	1.児童家庭福祉の歴史的展開 2.社会的支援 3.新たな貧困への対応	
	19	こどもの人権擁護と児童家庭福祉	1.児童の人権擁護の歴史、権利に関する条約 2.保育の専門職と倫理	
	20	児童家庭福祉の制度と実施体制	1.児童家庭福祉の法制度 2.児童家庭福祉の実施体制	
	21	施設と専門職	1.児童福祉施設の種類、設置・運営 2.専門職 3.入所のしくみ	
	22	少子化と地域子育て支援	1.少子高齢化社会 2.地域子ども・子育て支援事業 3.子育て支援の課題	
	23	母子保健と児童の健全育成	1.母子保健の意義 2.児童健全育成の意義 3.サービスの動向・課題	
	24	多様な保育ニーズへの対応	1.保育ニーズに対応するためのしくみ 2.教育施設・保育施設 3.障害児支援	
	25	児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス	1.児童虐待の定義 2.防止と支援	
	26	貧困家庭、外国籍のこどもと家庭への対応	1.子育て世代の貧困 2.子どもの貧困対策とひとり親家庭への支援	
	27	社会的養護	1.社会的養護とは 2.社会的養護の施設等	
	28	障害のあるこどもへの対応	1.障害児の福祉 2.障害児支援の背景 3.障害児支援とポイント	
	29	少年非行等への対応	1.少年非行の状況 2.児童自立支援施設・少年院	
	30	次世代育成支援と児童家庭福祉の推進	1.次世代育成支援としての児童家庭福祉 2.認定こども園と「幼保連携」という考え方	
31	地域における連携とネットワーク	1.「連携」の必要性と目的と場面 2.ネットワークとは		
32				
<p>履修上の留意点</p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>				

## 授業計画(シラバス)

科目名	こども家庭支援論	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 子育て家庭支援の意義・目的を理解する。 2. 保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 3. 子育て家庭に接するに支援の体制について理解する。 4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状、課題について理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	株)みらい 演習・保育と相談援助、資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  後 期	17	子どもと家庭を取り巻く環境	・家族・家庭を取り巻く環境 ・家族機能の変化
	18	保育者が実践する子ども家庭支援とは	・保育者の専門性を生かした支援
	19	子育て家庭を支える法・制度や社会資源	・子育て家庭を支えるこれまでの取り組みおよび支援体系
	20	保育者に求められる基本的態度および基本的技術	・子どもの育ちの喜びの共有
	21	保育者が行う子ども家庭支援の実際	・教育・保育施設が持つ特性と家庭への支援へのつなぎ方
	22		・保育場面における具体的な子育て支援の方法
	23	地域の子育て家庭への支援	・保育所や地域子育て支援拠点で行われる保育士による地域子育て支援
	24		・地域子育て支援専門職としての支援と実際の取り組み
	25	さまざまな子ども家庭の理解と支援	・様々な形の家庭と保育士の支援
	26	不適切な養育環境の子どもやその家庭への支援	・保護者のSOSとしての不適切な養育環境への気づき
	27		・不適切な養育環境の子どもやその家庭における支援の展開
	28	発達障がい児等の理解と家庭への支援	・日本における障がい児に関する現状と家庭への支援の展開
	29	子どもの貧困の理解と家庭への支援	・子どもの貧困の定義とその現状
	30		・子どもの貧困問題における支援の展開
31	保育と子ども家庭支援	保育が子ども家庭支援に果たす役割と保育現場に求められるソーシャルワーク	
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こども家庭支援の心理学	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1.生涯発達から支援を考える。 2.家族理解から支援を考える。 3.多様な家族への支援を考える。 4.子どものこころへの支援を考える。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	萌分書林 スギ先生と考える子ども家庭支援の心理学		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	生涯発達とは何か	・乳幼児期の発達
	2		・児童期の発達
	3		・青年期の発達
	4		・青年期・高齢期の発達
	5	家族関係から支援を考える	・家族・家庭の意義と機能
	6		・親子関係・家族関係の理解
	7		・子育てを取り巻く社会的状況
	8		・ライフコースと仕事・子育て
	9	多様な家庭への支援を考える	・多様な家族の現状
	10		・配慮を要する家庭①～保護者の疾患や障害～
	11		・配慮を要する家庭②～虐待～
	12	子どものこころへの支援を考える	・子どものストレス
	13		・睡眠、食事、排泄にかかわる症状
	14		・子どもにみられるその他の症状
	15		・発達障害
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こどもの理解と援助	指導担当者名	富森 崇
実務経験	学校でのカウンセリングや発達障害のこどもたちの支援に従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実践において、実際に応じたこども一人ひとりの心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。</li> <li>・子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考えを理解する。</li> <li>・子どもを理解するための具体的な方法を理解する。</li> <li>・子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	光生館 こどもの理解と援助		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	子どもの発達の把握と専門性	・生きる力の基礎と多様な経験
	18		・子ども理解における発達の把握
	19		・保育の観察と記録
	20		・保育を振り返る
	21	子どもを理解する視点と保育実践	・保育者と子どもとの関わり
	22		・子どもの仲間遊び
	23		・自己主張と自己抑制
	24	保育における発達援助	・基本的生活習慣の獲得と主体性
	25		・発達課題に応じた援助と協働
	26		・発達と学びの連続性と就学支援
	27	現代社会における子どもの発達と保育の問題	・乳幼児を持つ家族の現状
	28		・子どもの発達に影響する要因
	29		・幼稚園、保育園における子育て支援
	30		・親子を支えるカウンセリング
31	まとめ	・育ち、学びをとらえて支える	
32			
<p><b>履修上の留意点</b>  出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。  対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こどもの保健		指導担当者名	圓谷 厚子	
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	幼児教育・大学科2年	
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ー	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの身体の発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解する。</li> <li>・子どもの健康状態の把握とわかりやすい病気の特徴を理解する。</li> <li>・保育における環境整備・安全管理・衛生管理について理解する。</li> </ul>				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	中央法規 基本シリーズ『子どもの保健』『保育所保育指針』※資料を配布				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画  前期	1	オリエンテーション 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的	保健活動から見た生命の保持と情緒の安定 養護と教育を一体的に行う 他		
	2	健康の概念と健康指標	健康の概念とヘルスプロモーション 健康指標 他		
	3	現代社会における子どもの健康に関する現状と母子保健施策	現代社会と子どもの健康 母子保健法 他		
	4	地域における保健活動と子ども虐待防止	保健行政施策の体系と地域保健 児童虐待とは		
	5	身体発育及び運動機能の発達と保健	身体発育の過程 臓器の発育様式		
	6	生理機能の発達と保健	呼吸器系 循環器系 消化器系 腎・泌尿器系		
	7	発育発達の把握と健康診断	園における発育発達のみかた 保育士による発育・発達の把握		
	8	保護者との情報共有	気づきについて 気づきを整理する		
	9	主な疾病の特徴①新生児の病気、先天性の病気	新生児の病気 新生児の理解 他		
	10	主な疾病の特徴②	循環器、呼吸器、呼吸器、血液、消化器の病気		
	11	主な疾病の特徴③	免疫 腎・泌尿器 内分泌		
	12	主な病気の特徴④	神経中枢の病気 運動器の病気 皮膚の病気 目・耳の病気		
	13	主な疾病の特徴⑤	感染症理解の基本 感染症法と学校感染症		
	14	子どもの疾病の予防と適切な対応	定期健康診断 日々の健康観察 感染症の予防		
	15	まとめ	振り返り		
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

## 授業計画(シラバス)

科目名	こどもの食と栄養		指導担当者名	庄司 由美子	
実務経験	施設での管理栄養士として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	幼児教育・大学科2年	
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	1.健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ 2.子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める 3.食育の基本とその内容及び食育のための環境を地域社会・文化とのかかわりの中で理解する 4.家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について学ぶ 5.特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養 大塚周二他著 萌文書林				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	子どもの健康と食生活の意義	・子どもの心身の健康と食生活 ・子どもの食生活の現状と課題		
	2	子どもの発育・発達と食生活	・身体発育・精神・運動機能発達と栄養・食生活 ・食べる機能・消化吸収機能の発達と栄養・食生活		
	3	栄養に関する基本的知識	・栄養素・栄養生理・代謝に関する基本的知識 ・日本人の食事摂取基準の意義とその活用		
	4	子どもの発育・発達と食生活 妊娠期(胎児期)の食生活	・妊娠のメカニズムと正常な妊婦の食生活 ・母乳分泌と食生活 ・乳児期の心身の特徴と食生活の関係		
	5	子どもの発育・発達と食生活 幼児期の心身の発達と食生活	・献立作成・調理の基本・調理実習		
	6				
	7		・幼児期の心身の特徴と食生活の関係 ・幼児期の食機能の特徴とその実践 ・間食の意義とその実践 ・お弁当		
	8	子どもの発育・発達と食生活	・献立作成・調理の基本・調理実習		
	9				
	10	食育の基本と内容	・食育における養護と教育の一体性		
	11		・食育のための環境づくり		
	12	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	・家庭における食事と栄養 ・児童福祉施設における食事と栄養		
	13	疾病および体調不良の子どもへの対応	・子どもの疾病の特徴と食生活 ・小児に多い疾病・症状と食生活		
	14	食物アレルギーのある子どもへの対応	・食事療法、食物アレルギーとは ・食物アレルギーの治療		
	15	障がいのある子どもへの対応	・障がいの特徴と食生活 ・摂食・嚥下機能障がい児の食生活の実際		
	16				
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

## 授業計画(シラバス)

科目名	乳児保育Ⅱ	指導担当者名	圓谷 厚子
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 3歳児未満の保育・発達の過程や特性をふまえた援助や関わりの方的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性をふまえ、3歳児未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際について具体的に理解する。 4. 上記の1～3をふまえ、乳児保育における計画の作成について具体的に理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	中山書店「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  前期	1	オリエンテーション 乳児保育の基本 子どもの生活の流れ	特定の大人との関わり 1日の流れと育児担当制
	2	子どもの保育環境(0歳児) 子どもの援助の実際(0歳児)	乳児が過ごしやすい部屋 生活の援助と遊びの援助
	3	育児担当制	育児担当制について
	4	生活の援助の方法	抱っこ・おんぶ・調乳・授乳 着がえ・おむつ替え(演習)
	5	生活の援助の方法	沐浴演習
	6	3歳未満児の発育・発達をふまえた援助の実際	おもちゃ製作(課題製作したもの) 対象年齢や遊び方等を発表する
	7	3歳未満児の発育・発達をふまえた援助の実際	発達に応じた遊び
	8	まとめ	乳児保育の実際援助の振り替えり
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	こどもの健康と安全	指導担当者名	園谷 厚子
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。</li> <li>2. 保育における衛生管理・事故防止及び、安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。</li> <li>3. 保育における感染症対策について具体的に理解する。</li> <li>4. 子どもの健康及び、安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。</li> </ol>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	中央法規『子どもの健康と安全』 ※保育救命に関する資料を配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	オリエンテーション 子どもの健康と保育の環境 こどもの保健に関する個別対応と集団全体の健康	保育所等に求められる環境と現状 日常の健康管理、健康観察のポイント
	2	衛生管理 事故防止及び安全対策	室内外の衛生管理 保育施設での事故の原因と対応 (危険予知トレーニング)
	3	災害への備えと危機管理 体調不良や傷害が発生した場合の対応	危機管理 (災害時に求められる判断力と行動力) 子どものバイタルサインと全身状態の観察(バイタルサインの測定)
	4	救急処置および救急蘇生法	こどもの事故とけが (こどもの救急救命法) AED(演習)
	5	感染症の集団発生と予防対策	感染症の基礎知識(吐物処理の方法)
	6	個別的配慮を必要とする子どもへの対応 障害のある子どもへの適切な対応	幼児期によくみられる健康障害とそれぞれに必要な具体的な支援 障害の定義
	7	職員間の連携・協働と組織的取り組み 保育所における保健計画及び評価	連携・協働・ネットワーク 健康診断(身体測定の手技)
	8	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携 まとめ	医療的ケアを必要とする子どもの保育所の受け入れ 授業の振り返り
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	社会的養護Ⅱ	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 保育における衛生管理・事故防止及び、安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する。 3. 保育における感染症対策について具体的に理解する。 4. 子どもの健康及び、安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について具体的に理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	中央法規『子どもの健康と安全』 ※保育救命に関する資料を配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  前期	1	オリエンテーション 子どもの健康と保育の環境 こどもの保健に関する個別対応と集団全体の健康	保育所等に求められる環境と現状 日常の健康管理、健康観察のポイント
	2	衛生管理 事故防止及び安全対策	室内外の衛生管理 保育施設での事故の原因と対応 (危険予知トレーニング)
	3	災害への備えと危機管理 体調不良や傷害が発生した場合の対応	危機管理 (災害時に求められる判断力と行動力) 子どものバイタルサインと全身状態の観察(バイタルサインの測定)
	4	救急処置および救急蘇生法	こどもの事故とけが (こどもの救急救命法) AED(演習)
	5	感染症の集団発生と予防対策	感染症の基礎知識(吐物処理の方法)
	6	個別的配慮を必要とする子どもへの対応 障害のある子どもへの適切な対応	幼児期によくみられる健康障害とそれぞれに必要な具体的な支援 障害の定義
	7	職員間の連携・協働と組織的取り組み 保育所における保健計画及び評価	連携・協働・ネットワーク 健康診断(身体測定の手技)
	8	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携 まとめ	医療的ケアを必要とする子どもの保育所の受け入れ 授業の振り返り
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	子育て支援	指導担当者名	圓谷 厚子
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動のも本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。 2. 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び、技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	子育て支援 15のストーリーで学ぶワークブック 萌文書林 二宮裕子 保育所保育指針解説書フレーベル館		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  前期	1	子育て支援とは 子育て支援の意義	子育て支援の制度的基盤 子育て支援が求められる社会的基盤
	2	子育て支援の基本的価値・倫理 子育て支援の基本姿勢	子どもの最善の利益の尊重 家庭や地域の社会資源との連携
	3	子育て支援の個別的技術 園内と・園外との連携と社会資源	子育て支援のプロセス 園内の職員間の連携
	4	記録・評価・研修 日常会話を活用した子育て支援	記録で用いられる様々な文体 送迎時のやり取り
	5	文書を活用した子育て支援 行事などを活用した子育て支援	連絡帳・お便り 保育参観・保護者会
	6	環境を活用した子育て支援 地域子育て支援経典における支援	環境を通じた子育て支援の意義 保育所・認定こども園などで実施されることが多い地域子育て支援サービス
	7	入所施設における子育て支援 通所施設における子育て支援	施設における親と子をつなぐ支援 通所施設をしようとする保護者の傾向
	8	まとめと今後の課題	苦情対応 まとめ
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	臨床医科学 I	指導担当者名	圓谷厚子
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 発育期の区分とおこりやすい病気について、説明することができる。 2. こどもにおこりやすい病気の原因、発病のしくみや症状について、説明することができる。 3. こどもが病気を発症した時の対応について、説明することができる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	「こどもの病気の地図帳」鴨下重彦・柳澤正義監修 講談社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	オリエンテーション 発育期からみるこどものからだ と病気	
	2	発達と症状・病気	
	3	脳・神経の病気	
	4	眼・耳・鼻の病気	
	5	口・のどの病気	
	6	気管・気管支・肺の病気	
	7	心臓の病気	
	8	胃・腸・肝臓の病気	
	9	腎臓・尿路・泌尿器の病気	
	10	感染症・皮膚・免疫の病気	
	11	アレルギー・精神・血液・造血器の病気	
	12	栄養・代謝・内分泌の病気	
	13	骨・関節・筋肉の病気とスポーツ障害	
	14	小児がん	
	15	こどもの事故と対応、総括	
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	臨床医科学Ⅱ	指導担当者名	圓谷厚子
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 養護教諭に必要とされる解剖生理学の知識を修得し、その概要を説明できる。 2. 正常な人体の仕組み及び各組織と臓器の構造と機能について、説明できる。 3. 怪我や病気を理解するための基礎となる解剖生理学の知識を、身体の異常に対する判断につなげることができる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	『人体機能学・人体構造学』/郷間英世ほか 著/姫路大学教育学部通信教育課程		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  前期	1	解剖生理学と養護教諭	解剖学的用語
	2	細胞と組織	人体を構成する組織
	3	骨格系の構造と機能	骨と骨格(頭蓋、体幹、四肢等)
	4	筋・関節系の構造と機能	筋・関節の構造と種類、身体の運動と骨格筋
	5	循環器系の構造と機能(1)	心臓
	6	循環器系の構造と機能(2)	リンパ系
	7	呼吸器系の構造と機能	鼻・鼻腔・咽頭・気管と気管支・肺、呼吸の調整
	8	消化器系の構造と機能	口腔・咽頭・食道・胃・小腸・大腸・肝・胆・膵臓、消化吸収と排泄
	9	泌尿器系の構造と機能	腎臓・尿管・膀胱・尿道、排泄の生理
	10	内分泌系の構造と機能	ホルモン分泌
	11	生殖器系の構造と機能	女性生殖器、男性生殖器
	12	神経系の構造と機能	中枢神経系・末梢神経系、情報収集と伝達
	13	感覚系の構造と機能	視覚・聴覚・嗅覚・味覚等
	14	皮膚の構造と機能	からだや臓器を守るしくみと体温
	15	血液の組成と機能、まとめ	体内物質運搬
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育実習論Ⅱ	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰで学んだことを発表しグループ討議をして振り返り、保育者としての知識、技術を習得する</li> <li>・部分実習、責任実習に必要な指導案を立案したり、教材研究を行い、実習における自己課題を明確にする</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	実習の記録と指導案 ひかりのくに		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  前期	1	保育実習Ⅱの目的と概要	保育実習Ⅱの意義と目的について
	2	保育実習の総合的な理解	専門性と職業倫理についての理解
	3		子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解
	4	保育実践力の育成	部分実習の指導計画の立案・準備
	5		1日実習の指導計画の立案・準備
	6		指導案の発表
	7	実習後の学び	グループワーク、報告会
	8	全体総括	今後の自己課題の明確化
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育実習論Ⅲ	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1.保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ 2.実習や既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う 3.保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ 4.保育士の専門性と職業倫理について理解する 5.実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	必要に応じて資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	オリエンテーション	実習Ⅲの意義
	2	保育実習による総合的な学び	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解    子どもの保育と保護者支援
	3	保育実践力の育成	子どもの状態に応じた適切な関わり    保育の表現技術を生かした保育実践
	4	計画と観察、記録、自己評価	保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践
	5		保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善
	6	保育の専門性と職業倫理	保育の専門性と職業倫理
	7	事後指導における実習の総括と評価	実習の総括と自己評価
	8		課題の明確化
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育実習Ⅱ	指導担当者名	原 澄江	
実務経験	幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事児童福祉施設にて保育		実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年	
授業方法	講義: ー	演習: ー	実習: ○	実験: ー
単位数	2 単位	総時間	80 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育実習Ⅰで学んだことを発表しグループ討議をして振り返り、保育者としての知識、技術を習得する</li> <li>・部分実習、責任実習に必要な指導案を立案したり、教材研究を行い、実習における自己課題を明確にする</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	必要に応じて資料配布			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業 計画	前期	保育園での実習を10日間で80時間、児童福祉施設での実習を10日間で80日間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。		
		オリエンテーション 保育実習の総合的な理解□ 保育実習の総合的な理解□ 保育実践力の育成□ 保育実践力の育成□ 保育実践力の育成□ 実習後の学び□ 全体総括□	実習Ⅱの意義 専門性と職業倫理についての理解□ 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解□ 部分実習の指導計画の立案・準備□ 1日実習の指導計画の立案・準備□ 指導案の発表□ グループワーク、報告会□ 今後の自己課題の明確化	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育実習Ⅲ	指導担当者名	高橋 陽佳	
実務経験	児童福祉施設にて保育士として従事			実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年	
授業方法	講義: ー	演習: ー	実習: 〇	実験: ー
単位数	2 単位	総時間	80 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	1.児童福祉施設等(保育所以外)の役割や機能について実践を通して、理解を深める 2.家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う 3.保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する 4.保育士としての自己の課題を明確化する			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	必要に応じて資料配布			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
学期	ターム	項目	内容・準備資料等	
授業計画	前期	保育園での実習を10日間で80時間、児童福祉施設での実習を10日間で80日間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。		
		オリエンテーション□ 保育実習による総合的な学び□ 保育実践力の育成□ 計画と観察、記録、自己評価□ 計画と観察、記録、自己評価□ 保育の専門性と職業倫理□ 事後指導における実習の総括と評価□ 事後指導における実習の総括と評価	実習Ⅲの意義□ 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育と保護者支援□ 子どもの状態に応じた適切な関わり 保育の表現技術を生かした保育実践□ 保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践□ 保育の観察、記録、自己評価に基づく保育の改善□ 保育の専門性と職業倫理□ 実習の総括と自己評価□ 課題の明確化□ □ □	
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション研修Ⅱ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを深め、高める</li> <li>・集団行動を通して協調性、一般常識やルール、マナーを学ぶ</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを深め、高める</li> <li>・集団行動を通して協調性、一般常識やルール、マナーを学ぶ</li> </ul>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	2年次 国内研修	保育に関する学びを深め、さらに目標に向かって進んでいけるようにする
	2	2年次 学園祭	クラスで協力して一つのことをやり遂げる達成感を味わう
	3	2年次 スポーツフェスタ	体を動かし楽しみ、クラスメイトや上級生などとの交流を図る
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション研修Ⅱ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅱ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成
	2	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・プレ実習
	3	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・プレ実習
	4	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成
	5	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・プレ実習
	6	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・プレ実習
	7	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成
	8	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・プレ実習
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅱ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科1年 保育士コース
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	わらべうた	わらべうたについての理解
	18	わらべうた	人形制作
	19	製作	ペープサートの製作
	20	製作	ペープサートの製作
	21	実演	ペープサートの発表
	22	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
	23	製作	パネルシアターの製作
	24	製作	パネルシアターの製作
	25	実演	パネルシアターの発表
	26	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
	27	製作	手袋シアターの製作
	28	製作	手袋シアターの製作
	29	実演	手袋シアターの実演
	30	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
31	まとめ		
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	PCスキルアップ講座Ⅱ	指導担当者名	井口 義基
実務経験	—	実務経験:	
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: —	演習: ◎	実習: — 実験: —
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入力スピードの正確性の練習。</li> <li>・検定範囲を中心にスライド作成やアニメーションを学ぶ。</li> <li>・全体的なレイアウトを整え、文章・グラフ・パワーポイントの作成を学ぶ。</li> <li>・検定試験に準じた過去問題を解ける力をつける。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	よくわかるWord2021、Excel2021、PowerPoint2021 FOM出版		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  後期	17	練習問題1.2	Word PowerPoint
	18	練習問題3.4	PowerPoint Excel
	19	練習問題5.6	PowerPoint Excel
	20	練習問題7.8	Excel
	21	練習問題9.10	PowerPoint Excel
	22	練習問題11.12	Word PowerPoint
	23	練習問題13.14	Word PowerPoint
	24	模擬問題	USBメモリ保存・検定に向けた計測(45分)
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<p><b>履修上の留意点</b>  出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。  対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ピアノレッスンⅡ	指導担当者名	齋藤 由香
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科2年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	音楽に関する基本的な知識と技術を身につけ、それらに関する様々な活動を通して、楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な要因とを結びつけ、前年度に習得した「こどもと音楽Ⅰ」の教授内容を基盤に、より高度な目標を持って、授業を展開し、それらをさらに探求することにより、保育の現場における音楽表現力、指導援助力を深めていき、適応力のある指導者を養成することを目的とする		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	オリエンテーション	授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明
	18	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	19	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	20	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	21	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	22	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	23	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	24	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	25	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	26	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	27	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	28	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	29	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	30	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
31	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認	
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅢ	指導担当者名	後藤 祐美
実務経験	幼保連携型認定こども園にて保育教諭として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者としての立ち居振る舞い、資質を磨く。</li> <li>・社会人としての立ち居振る舞い、資質を磨く。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  通年	1	オリエンテーション	自己紹介・親睦を深める
	2		自己紹介・親睦を深める
	3	保育者として	保育者としての心構え
	4		保育者としての心構え
	5		保育者の身だしなみ・服装など
	6		保育者の身だしなみ・服装など
	7	保育者として	保育者として成長するために
	8		保育者として成長するために
	9		コミュニケーション能力を磨くために
	10		コミュニケーション能力を磨くために
	11		コミュニケーション技法を使った実践
	12		コミュニケーション技法を使った実践
	13		保護者対応とは
	14		保護者対応とは
	15		電話対応の仕方と実践
	16		電話対応の仕方と実践
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅲ	指導担当名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<p>・話すことの重要性、自分の考えを正しく伝えることの大切さを再認識し、様々なシーンでの話し方を習得する。</p> <p>・「聞く」ことがコミュニケーションにおいて果たす役割を理解し、傾聴・受容する姿勢を身につける。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	コミュニケーション	出会い・第一印象・自分の良いところ探し
	2		出会い・第一印象・自分の良いところ探し
	3	コミュニケーションの基本を身につけよう	コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとりよう
	4		コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとりよう
	5		コミュニケーションと話し上手・挨拶
	6		コミュニケーションと話し上手・挨拶
	7		正しい言葉遣いと敬語
	8		正しい言葉遣いと敬語
	9	話すときの心構えを理解しよう	聞き手を意識した心構え、話題の広げ方
	10		聞き手を意識した心構え、話題の広げ方
	11	効果的な表現力を身につけよう	効果的に話すとは 話の構成
	12		効果的に話すとは 話の構成
	13	実践	子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	14		子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	15		子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	16		子ども達とコミュニケーションをとってみよう
<p><b>履修上の留意点</b>  出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。  対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名		指導担当者名	
実務経験		実務経験:	
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科2年 保育士コース
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。          期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<p><b>履修上の留意点</b>          出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。          対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	特別支援演習	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感覚統合上の問題改善のための活動計画が立案できる</li> <li>・対象児にとっては意欲的に取り組める「楽しい」活動となる設定が工夫できる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	子どもの理解と援助のために感覚統合 Q&A/土田玲子監修・石井孝弘＋岡本武己/協同医書出版社/2019年		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	オリエンテーション・感覚統合と3つの感覚①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本授業の進め方</li> <li>・触覚、前庭覚、固有覚について</li> </ul>
	2	気になるこどもの行動と感覚統合①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・触覚過敏について</li> <li>・触覚過敏改善のための活動</li> <li>・触覚過敏改善のための活動例</li> </ul>
	3	気になるこどもの行動と感覚統合②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重力不安および重力不安改善のための活動</li> </ul>
	4	気になるこどもの行動と感覚統合③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重力不安改善のための活動計画発表</li> </ul>
	5	気になるこどもの行動と感覚統合④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低反応およびその改善のための活動</li> </ul>
	6	気になるこどもの行動と感覚統合⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低反応改善のための活動計画発表</li> </ul>
	7	気になるこどもの行動と感覚統合⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・低緊張およびその改善のための活動</li> </ul>
	8	気になるこどもの行動と感覚統合⑦	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラテラルリティと両側統合の問題およびその改善のための活動</li> </ul>
	9	気になるこどもの行動と感覚統合⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラテラルリティと両側統合の問題とその改善のための活動計画発表</li> </ul>
	10	気になるこどもの行動と感覚統合⑨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディイメージの問題とその改善のための活動</li> </ul>
	11	気になるこどもの行動と感覚統合⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボディイメージの問題の改善のための活動計画発表</li> </ul>
	12	気になるこどもの行動と感覚統合⑪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動企画の問題とその改善のための活動</li> </ul>
	13	気になるこどもの行動と感覚統合⑫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動企画の問題の改善のための活動計画発表</li> </ul>
	14	気になるこどもの行動と感覚統合⑬	<ul style="list-style-type: none"> <li>・VTRでこどもの感覚統合上の問題を分析</li> <li>・サーキットの組み立てについて</li> </ul>
	15	気になるこどもの行動と感覚統合⑭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでのまとめ</li> </ul>
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	文学	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事	実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: ◎	演習: ○	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本文学史に沿い、有名な作品に触れ、文学の基礎知識や時代背景を知る。</li> <li>・各時代の児童観や児童へのまなざしを、文学作品を通じて学び、説明できる。</li> <li>・日本文学作品は海外の作品の影響を強く受けているので、どのような形で日本で受容されてきたか、また情報社会となった現在、どのように世界と結びついているかを理解する。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	『原色新日本文学史』/秋山虔/文英堂		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業 計画  前期	1	科目の目的と内容 一新指導要領における文学の役割―「伝統的文化」―	受講のためのガイダンス。教育指導要領の流れと「伝統的文化」について知る。昔話・神話・民話の違いについて学ぶ。『日本書紀』『古事記』について学ぶ。
	2	漢字の伝来、仮名の発達。韻文学の発達。	『万葉集』『古今集』『新古今集』など韻文学について学ぶ。小学校「国語」で取り上げられている百人一首の作品と作家を学ぶ。
	3	漢文学と仮名文学の隆盛	仮名文学の前期的作品を学ぶ。『竹取翁物語』『伊勢物語』『源氏物語』など物語の系譜を学ぶ。
	4	仮名文学を学ぶ(物語・日記)	『源氏物語』に影響された作品について学ぶ。日記文学を学ぶ。
	5	随筆文学を学ぶ	「枕草子」「方丈記」「徒然草」を読み、自分の好きな段を紹介するレポートを作成し、発表する。
	6	歴史文学・説話文学を学ぶ。中世文学を学ぶ。	歴史物語について学ぶ。四鏡の内容について学ぶ。説話物語について、学ぶ。近代小説に与えた影響などについて調査する。
	7	近世文学について学ぶ	江戸文学を代表する歌舞伎・浄瑠璃・俳諧・川柳・小説(草紙本・読み本・洒落本)などについて学ぶ。DVDを視聴した後、感想を発表し合う。
	8	近代文学における外国文学の受容と展開	明治期の文明開化に伴う近代化と外国作品の受容の過程を概観する。イソップ、アンデルセン、グリム童話、仙女物語などの受容を学ぶ。
	9	近代日本文学(明治)を概観する	明治文学史を概観し、有名な作家や作品を学ぶ。ロマン派、自然主義派、反自然主義派、高踏派と呼ばれる作家と作品について学ぶ。
	10	近代文学(大正)を概観する	大正文学史を概観し、有名作家や作品を学ぶ。大正デモクラシーという時代背景と教育と関連する『赤い鳥』運動について知る。
	11	宮沢賢治童話・新美南吉童話	宮沢賢治の生涯と作品の魅力を知る。DVD鑑賞。感想を話し合う。新美南吉の作品を知り、鑑賞する。
	12	近代日本文学(昭和前期)・戦争文学を概観する。	昭和前期作品のプロレタリア文学・新感覚派の有名な作家や作品を学ぶ。戦争文学(少国民文学・銃後の文学含む)を学ぶ。
	13	戦後の童謡と童話・ファンタジー作品を学ぶ	ラジオによって広まった幼児童謡と童話について学ぶ。外国のファンタジー作品の影響を受け、日本でも可能性を広げた作品を学ぶ。
	14	現代文学の潮流。第2次世界大戦後の文学の潮流を概観し、身近な作家の作品に触れる。	戦争で傷ついた人々へのメッセージとして描かれた作品を学ぶ。新しい民主主義をどう受け入れたのか。戦後の新しい感覚で書かれた児童文学作品を読む。自分の選んだ作品をレポートする。
	15	情報化社会の中での日本文化・文学。	クールジャパンと言われるザブカルチャーと文学の関わりを話し合う。授業のまとめと振り返り。
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	人権論	指導担当者名	國分 千恵
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: ◎	演習: ー	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権課題に関する歴史や制度について理解を深めることができる。</li> <li>・自治体の市民意識調査をもとに、人権意識の現状を説明することができる。</li> <li>・現代社会における新しい人権問題について関心をもち、レポートすることができる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	『人権論の教科書』/和田幸司編/ミネルヴァ書房		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	1	人権とは何か オリエンテーション	人権とは何か、人権の歴史と意義について解説する。
	2	女性をめぐる人権	ジェンダーとは何か、ジェンダーギャップ指数からみえる日本の課題を学ぶ。
	3	子どもをめぐる人権	子どもの人権の特徴、子どもの人権の歴史、「子どもの権利条約」について学ぶ。
	4	高齢者をめぐる人権	高齢者に対する虐待、介護問題、災害時要援護者としての高齢者について学ぶ。
	5	「障害」をめぐる人権	「障害」とは何か、障害児教育をめぐる歴史的展開、インクルーシブ教育の課題と展望について学ぶ
	6	同和と人権(1)部落差別の現状 歴史	同和問題とは何か、歴史的側面、差別解消にむけての教育について学ぶ。
	7	同和と人権(2)人権教育の課題 教育	学校現場での具体的実践を通して、同和問題へのアプローチを学ぶ。
	8	性的マイノリティと人権	多様な性、カミングアウトとアウティング、社会のなかの性の在り方について学ぶ。
	9	外国人をめぐる人権	公務就任権に関する問題を通して、外国人と人権について考究する。
	10	医療における人権	国民皆保険制度と課題、医療における選択と人権について学ぶ。
	11	ハラスメントと人権	ハラスメントとは何か。ハラスメントのない社会をめざすために、私たちにできることを考える。
	12	経済的格差・貧困と人権	経済的格差・貧困とは何か、日本における状況について学ぶ。
	13	グローバルスタンダードとしての人権	姫路市市民意識調査をもとに、私たちの身の周りの人権について考える。
	14	人権教育の授業構成・多文化共生	多文化共生を中心に授業方法や授業構成について学ぶ。
	15	人権論のまとめ	自己の生活を振り返りながら、授業内容についてまとめを行う。
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	健康相談活動		指導担当者名	圓谷 厚子	
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	幼児教育・大学科3年	
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー	実験: ー	
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	<p>1 児童生徒の心身の健康課題の現状と課題について、説明することができる。</p> <p>2 健康相談活動の基本的な考え方とプロセスについて、説明することができる。</p> <p>3 健康相談活動に必要な知識や技能を習得し、学校現場で実践する力を備えることができる。</p> <p>4 学校内外の関係者と連携した支援の在り方について、説明することができる。</p>				
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>				
使用教材	「健康相談活動」/久保昌子他/姫路大学教育学部通信教育課程				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画  前期	1	オリエンテーション・教育における養護教諭の役割の確認	授業内容の説明/授業受講上の留意事項/養護教諭の活動と役割		
	2	養護教諭の職務と健康相談、健康相談と保健室	養護教諭の職務全般の理解/健康相談の基本的理解/職務の特質/保健室の機能の理解		
	3	児童生徒の健康問題の現状と課題、健康相談の過程	社会の変化と健康問題の変遷/子どもの心身の現代的健康課題/子ども理解		
	4	健康相談の進め方	支援のための方法と協働、支援目標、連携		
	5	場面や問題に応じた健康相談の進め方	その時その場、保健室での対応、継続的に関わる対応		
	6	子ども支援の方法・問題や個に応じた対応	対応の原則、対応事例、プロセスに応じて変化する養護教諭の役割		
	7	健康相談にかかわる記録・力量形成	記録の目的と意義、内容と方法、保管とプライバシーの保護		
	8	健康相談に必要な力量と学びの方法	求められる力量、力量形成の過程、学習の方向性と方法、事例検討の進め方		
	9	事例から健康相談を学ぶ	事例1～事例11		
	10	健康相談のまとめ	養護教諭が行うヘルスアセスメントについて		
	11	健康相談演習	ロールプレイング、ストレスマネジメント		
	12	健康相談の実際①:いじめ・保健室登校	いじめと養護教諭の役割/保健室登校と養護教諭の役割		
	13	健康相談の実際②:児童虐待・自傷行為	児童虐待と養護教諭/自傷行為と養護教諭		
	14	健康相談の実際③:ストレス・問題行動	ストレスと養護教諭/問題行動と養護教諭		
	15	健康相談の実際④:摂食障害・発達障害	摂食障害と養護教諭/発達障害と養護教諭		
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

## 授業計画(シラバス)

科目名	精神保健	指導担当者名	圓谷 厚子
実務経験	児童福祉施設で保育士や総合病院小児病棟で医療保育専門士としての従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1.精神保健活動について説明できる。 2.各発達段階における精神的健康を保持・向上させるための周りの関わり, 環境のあり方について述べるができる。 3.精神疾患について理解し, 学校現場, 職場, 地域社会における支援について考えることができる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他, 出席状況, 授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し, 100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ, 受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果, 必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は, A(80点~100点)(優), B(70点~79点)(良), C(60点~69点)(可), D(0点~59点)(不可), の4段階評価とする。A, B, Cの評価は合格として単位を認定し, D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	適宜, 資料を配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	オリエンテーション	精神保健の意義, 精神保健の対象・精神的健康についての基本的な定義を理解する
	2	精神保健の歴史	欧米, 日本における精神保健の歴史について概観する
	3	子どもの身体発育と精神保健	中枢神経系の構造, 中枢神経系の発達を阻害する原因などについて理解する
	4	胎児期・乳児期の精神保健	胎児期・乳児期の精神発達と発達課題から精神保健上の問題を理解し, 対応を考える
	5	幼児期・児童期の精神保健	幼児期, 児童期の精神発達と発達課題から精神保健上の問題を理解し, 対応を考える
	6	思春期・青年期の精神保健	思春期・青年期の心身の発達の特徴と発達課題から精神保健上の問題を理解し, 対応を考える
	7	成人期以降の精神保健①	成人期・中年期・老年期の発達課題と精神保健上の問題について学ぶ
	8	成人期以降の精神保健②	認知症について学ぶ
	9	生活環境の精神保健	学校・地域社会・職場の精神保健活動について学ぶ
	10	障害のある子どもの精神保健	障害児・障害者についての理解と対応を学ぶ
	11	大人の精神保健①	精神疾患についての知識を得る。統合失調症 うつ病
	12	大人の精神保健②	精神疾患についての知識を得る。人格障害 神経症
	13	精神障害の治療	精神障害の治療法について学ぶ。
	14	保育者・教育者の精神保健	保育者・教育者の職業の特性, メンタルヘルスの維持・向上について学ぶ
	15	まとめ	授業で学んだことから, 精神保健活動のあり方について考える
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は, 期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は, 遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ○ 実験:
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 実習に備えて、実習についての知識や技能、心構えについて説明できる。 2. 教育実習記録の記入や、指導案の立案ができる。 3. 実習終了後、自己評価、実習体験報告、意見交換会で自己課題を明確にすることができる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	『幼稚園教育要領解説』/『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	教育実習の意義と目的	教育実習に備えて、実習についての知識を習得する。
	2	幼稚園教諭の職務内容と職責	幼稚園教諭の職責や仕事内容を理解する。幼稚園教諭としての専門性と役割について理解を深める。
	3	教育実習の流れ・実習記録の意義と書き方	教育実習の流れと実習記録の意義を学ぶ。実習記録を書くことにより、1日を意識化し、改善に結びつけることを理解する。
	4	実習段階の理解・観察実習	教育実習全体の流れと実習内容等の概略を理解する。実習生としての観察の視点を理解する。
	5	参加実習・責任実習(部分実習、全日実習)の方法と記録の書き方	部分実習と全日実習の違いを理解する。事例を通して記録の書き方を学ぶ。
	6	指導案作成の必要性和意義	部分実習の目的を理解し、指導案作成について学ぶ。
	7	模擬保育への参加と記録の書き方	気付きの記録から指導案を作成し、指導方法を学ぶ。学んだこと、気付きを話し、理解を深める。
	8	気付きの記録から指導案を作成する①(ICT活用・グループワーク)	指導案の書き方について理解する。第7講義の内容を深める。
	9	気付きの記録から指導案を作成する②(ICT活用・グループワーク)	反省と評価の観点、評価が次の指導計画につながることを学ぶ。第8講義の内容を深める。
	10	指導案作成について理解を深める③(グループワーク)	指導計画作成について、意義や目的を理解する。全日実習の指導案作成、反省と評価の方法を学ぶ
	11	実習準備①	提出書類:実習目標を明確にし、個人票を作成する。
	12	実習準備②	実習前オリエンテーションに向けての流れを確認する。教材研究をし、保育技術を習得する(表現・絵本の読み聞かせ・手遊び・紙芝居など)。
	13	実習事前指導・実習生としての心構え	実習生としての心構え、守秘義務と個人情報保護について理解する。
	14	実習事後指導①	幼稚園教諭の活動から、自らの実習体験を振り返る。実習での体験をレポートにまとめ、今後の課題を明確にする。
	15	実習事後指導②(グループワーク)	実習体験についてグループで討議、発表を行い、実習園の教育方針や指導法を学ぶ。体験発表を行うことを通して、実習の学びを深める。
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)	指導担当者名	原 澄江
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ○ 実験: 0
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	教育実習(幼稚園)	指導担当者名	原 澄江	
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事		実務経験:	有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学科3年	
授業方法	講義: ○	演習: ○	実習: ◎	実験: -
単位数	4 単位	総時間	120 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員となるための心構えを自覚し基礎的な知識や技術を修得している。</li> <li>・求められる教員としての資質について理解し、教員の役割を自覚する。</li> <li>・これまで修得してきた技術を子どもたちの前で実践し、計画を立て一日の活動を運営することができる。</li> </ul>			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>			
使用教材	必要に応じて資料配布			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業 計画  前期	1	幼稚園や認定こども園での実習を20日間で160時間実施する。実習項目と内容は以下の通りである。		
		オリエンテーション 教育実習の総合的な理解□ 教育実習の総合的な理解□ 教育実践力の育成□ 教育実践力の育成□ 教育実践力の育成□ 実習後の学び□ 全体総括□	教育実習の意義 専門性と職業倫理についての理解□ 子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解□ 部分実習の指導計画の立案・準備□ 1日実習の指導計画の立案・準備□ 指導案の発表□ グループワーク、報告会□ 今後の自己課題の明確化	
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション研修Ⅲ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: -	演習: -	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを深め、高める</li> <li>・集団行動を通して協調性、一般常識やルール、マナーを学ぶ</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを深め、高める</li> <li>・集団行動を通して協調性、一般常識やルール、マナーを学ぶ</li> </ul>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	2年次 国内研修	保育に関する学びを深め、さらに目標に向かって進んでいけるようにする
	2	2年次 学園祭	クラスで協力して一つのことをやり遂げる達成感を味わう
	3	2年次 スポーツフェスタ	体を動かし楽しみ、クラスメイトや上級生などとの交流を図る
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション研修Ⅲ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: -	演習: -	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅲ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成
	2	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習
	3	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習
	4	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成
	5	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習
	6	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習
	7	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成
	8	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅲ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科1年 保育士コース
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	わらべうた	わらべうたについての理解
	18	わらべうた	人形制作
	19	製作	ペープサートの製作
	20	製作	ペープサートの製作
	21	実演	ペープサートの発表
	22	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
	23	製作	パネルシアターの製作
	24	製作	パネルシアターの製作
	25	実演	パネルシアターの発表
	26	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
	27	製作	手袋シアターの製作
	28	製作	手袋シアターの製作
	29	実演	手袋シアターの実演
	30	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
31	まとめ		
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	PCスキルアップ講座Ⅲ	指導担当者名	井口 義基
実務経験	—		実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: —	演習: ◎	実習: — 実験: —
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入カスピードの正確性の練習。</li> <li>・検定範囲を中心にスライド作成やアニメーションを学ぶ。</li> <li>・全体的なレイアウトを整え、文章・グラフ・パワーポイントの作成を学ぶ。</li> <li>・検定試験に準じた過去問題を解ける力をつける。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	よくわかるWord2021、Excel2021、PowerPoint2021 FOM出版		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	練習問題1.2	Word PowerPoint
	18	練習問題3.4	PowerPoint Excel
	19	練習問題5.6	PowerPoint Excel
	20	練習問題7.8	Excel
	21	練習問題9.10	PowerPoint Excel
	22	練習問題11.12	Word PowerPoint
	23	練習問題13.14	Word PowerPoint
	24	模擬問題	USBメモリ保存・検定に向けた計測(45分)
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ピアノレッスンⅢ	指導担当者名	齋藤 由香
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: ー	演習: ◎	実習: ー 実験: ー
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	音楽に関する基本的な知識と技術を身につけ、それらに関する様々な活動を通して、楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な要因とを結びつけ、前年度に習得した「こどもと音楽Ⅰ」の教授内容を基盤に、より高度な目標を持って、授業を展開し、それらをさらに探求することにより、保育の現場における音楽表現力、指導援助力を深めていき、適応力のある指導者を養成することを目的とする		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	オリエンテーション	授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明
	18	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	19	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	20	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	21	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	22	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	23	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	24	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	25	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	26	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	27	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	28	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	29	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	30	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
31	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認	
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究 I	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。</li> <li>・研究を通して子ども理解と保育者の資質を向上させる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	各自研究テーマに合わせた文献等		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	オリエンテーション	卒業研究について 研究・調査方法の説明
	2	研究テーマについて	研究テーマ・内容の検討と準備
	3		研究テーマ・内容の検討と準備
	4		研究テーマ・内容の検討と準備
	5	研究・調査	研究・調査実施
	6		研究・調査実施
	7		研究・調査実施
	8		研究・調査実施
	9		研究・調査実施
	10	中間報告会	研究・調査経過確認
	11		研究・調査経過確認
	12	研究・調査	研究・調査実施
	13		研究・調査実施
	14		研究・調査実施
	15		研究・調査実施
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究 I	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科2年 保育士コース
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17	中間報告会	研究・調査経過確認
	18		研究・調査経過確認
	19	まとめ	研究・調査のまとめ
	20		研究・調査のまとめ
	21		研究・調査のまとめ
	22		研究・調査のまとめ
	23		研究・調査のまとめ
	24		研究・調査のまとめ
	25		研究・調査のまとめ
	26		研究・調査のまとめ
	27		研究・調査のまとめ
	28	発表	卒業研究発表
	29		卒業研究発表
	30		卒業研究発表
31		卒業研究発表	
32			
<p><b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究Ⅱ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。</li> <li>・研究を通して子ども理解と保育者の資質を向上させる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	各自研究テーマに合わせた文献等		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	オリエンテーション	卒業研究について 研究・調査方法の説明
	2	研究テーマについて	研究テーマ・内容の検討と準備
	3		研究テーマ・内容の検討と準備
	4		研究テーマ・内容の検討と準備
	5		研究・調査実施
	6		研究・調査実施
	7		研究・調査実施
	8		研究・調査実施
	9		研究・調査実施
	10		研究・調査経過確認
	11		研究・調査経過確認
	12		研究・調査実施
	13		研究・調査実施
	14		研究・調査実施
	15		研究・調査実施
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究Ⅱ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科2年 保育士コース
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 後期	17		研究・調査経過確認
	18		研究・調査経過確認
	19		研究・調査のまとめ
	20		研究・調査のまとめ
	21		研究・調査のまとめ
	22		研究・調査のまとめ
	23		研究・調査のまとめ
	24		研究・調査のまとめ
	25		研究・調査のまとめ
	26		研究・調査のまとめ
	27		研究・調査のまとめ
	28		研究・調査のまとめ
	29		研究・調査のまとめ
	30		研究・調査のまとめ
31		研究・調査のまとめ	
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	特別研究 I	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	実習に向けての技術向上や知識習得を図る。 保育者としての倫理観を身につける。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	特別講義	外部講師による特別講義
	2	特別講義	外部講師による特別講義
	3	特別講義	外部講師による特別講義
	4	特別講義	外部講師による特別講義
	5	特別講義	外部講師による特別講義
	6	特別講義	外部講師による特別講義
	7	特別講義	外部講師による特別講義
	8	特別講義	外部講師による特別講義
	9	特別講義	外部講師による特別講義
	10	特別講義	外部講師による特別講義
	11	特別講義	外部講師による特別講義
	12	特別講義	外部講師による特別講義
	13	特別講義	外部講師による特別講義
	14	特別講義	外部講師による特別講義
	15	特別講義	外部講師による特別講義
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	特別研究 I	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経験有		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<p><b>履修上の留意点</b>  出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。  対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	特別研究Ⅱ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。</li> <li>・研究を通してこども理解と保育者の資質を向上させる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	オリエンテーション	就職について
	2	就職について	就職の目標を立案
	3		就職活動の準備、自分自身について知る
	4		就職活動の準備、履歴書作成 他
	5		就職活動の準備、履歴書作成 他
	6		就職活動の準備、履歴書作成 他
	7		就職活動の準備、履歴書作成 他
	8		就職先のリサーチ
	9		就職先のリサーチ
	10		就職先のリサーチ
	11		面接練習(グループ毎)
	12		面接練習(グループ毎)
	13		面接練習(グループ毎)
	14		面接練習(グループ毎)
	15		面接練習(グループ毎)
	16		面接練習(グループ毎)
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	特別研究Ⅱ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科3年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 2 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	キャリアプランⅣ	指導担当者名	後藤 祐美
実務経験	幼保連携型認定こども園にて保育教諭として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者としての立ち居振る舞い、資質を磨く。</li> <li>・社会人としての立ち居振る舞い、資質を磨く。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	資料配布		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  通年	1	オリエンテーション	自己紹介・親睦を深める
	2		自己紹介・親睦を深める
	3	保育者として	保育者としての心構え
	4		保育者としての心構え
	5		保育者の身だしなみ・服装など
	6		保育者の身だしなみ・服装など
	7	保育者として	保育者として成長するために
	8		保育者として成長するために
	9		コミュニケーション能力を磨くために
	10		コミュニケーション能力を磨くために
	11		コミュニケーション技法を使った実践
	12		コミュニケーション技法を使った実践
	13		保護者対応とは
	14		保護者対応とは
	15		電話対応の仕方と実践
	16		電話対応の仕方と実践
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	コミュニケーション論Ⅳ	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<p>・話すことの重要性、自分の考えを正しく伝えることの大切さを再認識し、様々なシーンでの話し方を習得する。          ・「聞く」ことがコミュニケーションにおいて果たす役割を理解し、傾聴・受容する姿勢を身につける。</p>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。          期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。          成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	コミュニケーション	出会い・第一印象・自分の良いところ探し
	2		出会い・第一印象・自分の良いところ探し
	3	コミュニケーションの基本を身につけよう	コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとりよう
	4		コミュニケーションの基本を知る・グループでコミュニケーションをとりよう
	5		コミュニケーションと話し上手・挨拶
	6		コミュニケーションと話し上手・挨拶
	7		正しい言葉遣いと敬語
	8		正しい言葉遣いと敬語
	9	話すときの心構えを理解しよう	聞き手を意識した心構え、話題の広げ方
	10		聞き手を意識した心構え、話題の広げ方
	11	効果的な表現力を身につけよう	効果的に話すとは 話の構成
	12		効果的に話すとは 話の構成
	13	実践	子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	14		子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	15		子ども達とコミュニケーションをとってみよう
	16		子ども達とコミュニケーションをとってみよう
<p><b>履修上の留意点</b>          出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。          対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	地域ボランティア	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 地域の教育活動や社会福祉活動などへボランティア活動を通して参加 2. 「地域貢献」と「自身の人格の向上」に成果を上げる		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	事前指導	ボランティア活動への理解を深め、ボランティア活動が円滑に実施できる手続き等を理解する。
	2	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	3	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	4	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	5	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	6	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	7	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	8	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	9	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	10	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	11	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	12	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	13	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	14	ボランティア活動	ボランティア活動の実践
	15	事後指導	ボランティア活動の実践を振り返り、シェアする。
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	地域ボランティア	指導担当者名	高橋 陽佳
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: ○	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	哲学	指導担当者名	後藤祐美
実務経験	幼保連携型認定こども園にて保育教諭として従事		実務経験： 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学4年
授業方法	講義：◎	演習：○	実習：－ 実験：－
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 論証の構造(主張と根拠の関係)を図式化して把握できる。 2. 演繹、推測、仮説形成といった推論のパターンの違いを理解し、使いこなせる。 3. 他者との対話を通じて自分の思考の癖に気づき、客観的な論証を組み立てることができる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	『新版論理トレーニング』/野矢茂樹/産業図書		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  前期	1	論理への招待	講義方針の説明。「論理＝言葉の関係」であることを、簡単なクイズや例文の比較を通じて体感し、思考のウォーミングアップを行う。
	2	接続の論理と構造	接続詞(解説・根拠・付加・転換)の機能を整理し、議論の骨格を矢印で図式化する技術を学ぶ。
	3	議論の骨格と論証	【第3・4章】議論の3要素(主題・問題・主張)を捉える視点と、パラグラフ間の関係(論証図)を書く技術を統合して学ぶ。
	4	演繹と推測	【第5章】根拠から結論を必然的に導く「演繹」と、飛躍を含む「推測」の違いを理解する。「必ずそうなる」のか「たぶんそうなる」のかを見極める。
	5	仮説形成の論理	【第5章】証拠から仮説を導くプロセス(なぜ○○なのか?→たぶん××だからだ)と、他の可能性(仮説)を消去する重要性を学ぶ。
	6	価値評価の論証	【第6章】「よい/悪い」「すべき」といった価値判断を含む議論の構造を学ぶ。仮定を置いて議論する「間接論証」の手法を扱う。
	7	否定の論理(1)	【第7章】「否定」と「反対」の違いを理解する。「かつ(連言)」と「または(選言)」の否定(ド・モルガンの法則)をトレーニングする。
	8	否定の論理(2)	第7章]「すべて(全称)」と「存在する(存在)」の否定関係を学ぶ。日常言語における「否定」の曖昧さを排する技術を磨く。
	9	条件構造の論理(1)	【第8章】「AならばB」の構造。逆・裏・対偶の関係を理解し、対偶だけが論理的に正しいことを確認する。
	10	条件構造の論理(2)	【第8章】条件連鎖(A→B、B→C ゆえに A→C)や、「AのときだけB」という複雑な条件構造のパズルの演習を行う。
	11	推論の技術(1)	第9章]「～がいる/ある」という存在文の扱い方と、選択肢を絞り込む「消去法」の論理構造を学ぶ。
	12	推論の技術(2)	【第9章】あえて反対のことを仮定して矛盾を導く「背理法」の構造を理解し、少し複雑な論理パズルに応用する。
	13	批判への視点	【第10章】適切な「質問」の仕方(意味の問い・論証の問い)と、「批判(論証への反論)」と「異論(対立意見)」の区別を学ぶ。
	14	論文を書く力	【第11章】これまでの技術を総動員し、問題(問い)を見つけ、論証の設計図(構成)を作るプロセスを学ぶ。
	15	総括	全体のまとめと到達度の確認。論理力を今後の学修・生活にどう活かすかを考える。
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	心理学	指導担当者名	富森 崇
実務経験	学校でのカウンセリングや発達障害のこどもたちの支援に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学4年
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 心理学の研究対象、研究方法を理解できる。 2. 対人コミュニケーションをキーワードとして、認知心理学、社会心理学、深層心理学を中心に知識を深めることができる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	『心理学 第5版補訂版』/鹿取 廣人(編集)、他/東京大学出版会		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画  前期	1	ガイダンス	心理学の概論、及び、心理学を学ぶ意義を説明する。
	2	心理学の基礎知識及び基礎理論	心理学の歴史、目的と方法を中心に学ぶ。
	3	基礎心理学を学ぶ①	実験心理学からの発展、「視知覚と錯視」について。
	4	基礎心理学を学ぶ②	社会心理学とは何か。対人コミュニケーションを中心に学ぶ「動作と表情」
	5	基礎心理学を学ぶ③	対人コミュニケーションを中心に学ぶ「しぐさのコミュニケーション」
	6	基礎心理学を学ぶ④	対人コミュニケーションを中心に学ぶ「認知バイアスと感情バイアス」
	7	基礎心理学を学ぶ⑤	認知心理学とは何か。「理解と学習」、「感覚と知覚」。
	8	基礎心理学を学ぶ⑥	「意思決定と問題解決モデル」
	9	基礎心理学を学ぶ⑦	記憶について I 「記憶の分類、感覚記憶」。
	10	応用心理学①	深層心理学《1》 意識と無意識。
	11	応用心理学②	深層心理学《2》 記憶について II 「記憶と健忘、抑圧された記憶」。
	12	応用心理学③	深層心理学《3》 「感情と表象」について学ぶ。
	13	心理学と教育との関わり	心理学が教育とのかかわりの中に生かせる影響や教育に貢献する役割りについて学習する。
	14	心理学と社会との関わり	心理学が社会とのかかわりの中に生かせる影響や社会に貢献する役割りについて学習する。
	15	まとめ	心理学についての学びを総括する。
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	国語		指導担当者名	原 澄江	
実務経験	幼稚園教諭、幼保連携型認定こども園にて保育教諭、保育所にて保育士として従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	幼児教育・大学4年	
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	1. 小学校国語科における言葉の力の重要性について理解することができる。 2. 言葉の学習の面白さ、奥深さを実感することができる。 3. 授業実践の基礎となる「読む、書く、話す、聞く」の理解を深めることができる。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	光村四年上・光村四年下/小学校学習指導要領解説(平成29年告示)解説 国語編/小学校国語科授業づくり				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
学期	ターム	項目	内容・準備資料等		
授業計画 前期	1	オリエンテーション 小学校国語科の目標と内容	本授業の目標と概要について知る 小学校国語科の目標と内容について理解する。		
	2	日本語と国語及び学習指導要領の概観	日本語と国語の違い、学習指導要領(国語)について理解する。		
	3	書くについて1	教科書にある伝統的な言語文化を扱った教材について考察する。		
	4	書くについて2	学習指要領にある書くことの学習過程について理解する。		
	5	書くについて3	教科書にある書くこと教材について考察する。		
	6	読むについて1	学習指導要領にある読むことの学習過程について理解する。		
	7	読むについて2	教科書にある読むこと教材(文学的な文章)について考察する。		
	8	読むについて3	教科書にある読むこと教材に関わる作者について考察する。		
	9	読むについて4	教科書にある読むこと教材(説明的な文章)について考察する。		
	10	話すこと・聞くことについて	学習指導要領にある「話す・聞く・話し合う」学習過程について理解する。言語(国語)に関して整理する。		
	11	文豪にふれる1	芥川龍之介について		
	12	文豪にふれる2	夏目漱石について		
	13	教科書によく取りあげられる作家1	新見南吉について		
	14	教科書によく取り上げられている作家2	宮澤賢治について		
	15	書写/我が国の言語文化について	書写について/言語文化について		
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

## 授業計画(シラバス)

科目名	外国語(英語)	指導担当者名	大澤 秋津
実務経験	—	実務経験:	有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学4年
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 授業を担当するのに必要な「聞く・話す・読む・書く」の4技能の英語力を身に付けている。 2. 英語に関する基本的な音声、語彙、文構造、文法、正書法等について理解している。 3. 児童文学(絵本や歌、詩など)や異文化理解に関する事柄について理解している。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	「Let's Try1」、「Let's Try2」(東京書籍) / 「We Can! 1」「We Can! 2」(東京書籍)		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	小学校英語教育の変遷	日本の英語教育における小学校英語教育の導入の経緯について詳しく理解するとともに、今後の日本における英語教育改革の方向性について自分の考えを述べる。
	18	英語の発音とリズム	英語の母音・子音の発音の仕方を知るとともに、正しい英語の発音方法を身に付ける。
	19	英語の発音と綴りの関係	基本的な単語を用いて、英語の発音と綴りの関係に関する規則を理解するとともに、正しい発音で英語を発音することができる。
	20	英語の文構造・文法	基本的な英語の文構造や文法について復習するとともに、基本的な文構造や文法を用いて英文を作りことができる。
	21	英語の語彙	小学校で学習される様々な分野における英語の語彙を身に付ける。
	22	第2言語習得理論	外国語を習得する上で基本となる第2言語習得理論の主なものについて知るとともに、授業におけるその活用方法を探る。
	23	児童文学(絵本)	英語の絵本などの児童文学を読むとともに、授業における絵本の活用方法について考える。
	24	児童文学(歌と詩)	英語の歌や詩などの児童文学を歌ったり読んだりするとともに、それらの授業における活用方法について考える。
	25	異文化理解	小学校の教科書における異文化理解教材について知るとともに、その指導方法について考える。
	26	英語の書き方	アルファベットの大文字・小文字の書き方を確認するとともに、その効果的な指導方法について考える。
	27	英語コミュニケーション(聞く)	小学校授業において聞くことを中心とする言語活動について知るとともに、その効果的な活用法を考える。
	28	英語コミュニケーション(読む)	小学校授業において読むことを中心とする言語活動について知るとともに、その効果的な活用法を考える。
	29	英語コミュニケーション(話す「やり取り・発表」)	小学校授業において話すこと(やり取り・発表)を中心とする言語活動について知るとともに、その効果的な活用法を考える。
	30	英語コミュニケーション(書く)	小学校授業において書くことを中心とする言語活動について知るとともに、その効果的な活用法を考える。
31	英語コミュニケーション(4技能統合)	小学校授業において4技能を統合した言語活動について知るとともに、その効果的な活用法を考える。	
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	臨床心理学		指導担当者名	富森 崇	
実務経験	学校でのカウンセリングや発達障害のこどもたちの支援に従事			実務経験:	有
開講時期	前期		対象学科学年	幼児教育・大学4年	
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一	実験: -	
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数	1 時間
学習到達目標	1. 臨床心理学の研究対象、研究方法を理解できる。 2. 教育場面における臨床心理学が活用される事例を理解し、対応について習得できる。				
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。				
使用教材	『日常生活と心的病理』/井上敏明(著)/朱鷺書房				
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。				
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>		
授業計画  前期	1	ガイダンス	臨床心理学の概論、及び、臨床心理学を学ぶ意義を説明する。		
	2	臨床心理学の基礎知識及び基礎理論《1》	パーソナリティ理論、教育場面での活用について学ぶ。		
	3	臨床心理学の基礎知識及び基礎理論《2》	パーソナリティ理論、教育場面での活用について学ぶ。		
	4	臨床心理学の基礎知識及び基礎理論《3》	発達理論、教育場面での活用について学ぶ。		
	5	臨床心理学の基礎知識及び基礎理論《4》	臨床教育の場で活用する理論を学ぶ。		
	6	メンタルヘルスとメンタルヘルスケアの実際《1》	精神疾患のメカニズムと、教育場面での活用について学ぶ。		
	7	メンタルヘルスとメンタルヘルスケアの実際《2》	精神疾患のメカニズムと、教育場面での活用について学ぶ。		
	8	メンタルヘルスとメンタルヘルスケアの実際《3》	精神疾患のメカニズムと、教育場面での活用について学ぶ。		
	9	サイコセラピーの実際《1》	各種心理療法を紹介しながら、クライアントへのエンパワメントの方法を学ぶ。		
	10	サイコセラピーの実際《2》	各種心理療法を紹介しながら、クライアントへのエンパワメントの方法を学ぶ。		
	11	サイコセラピーの実際《3》	各種心理療法を紹介しながら、クライアントへのエンパワメントの方法を学ぶ。		
	12	事例研究《1》	乳幼児期における事例を中心に学習する。		
	13	事例研究《2》	学童、青年期における事例を中心に学習する。		
	14	事例研究《3》	保護者支援の観点から保護者の抱えるメンタルヘルスケアを学ぶ。		
	15	まとめ	臨床心理学についての学びを総括する。		
	16				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。					

## 授業計画(シラバス)

科目名	こども学概論	指導担当者名	後藤祐美	
実務経験	幼保連携型認定こども園にて保育教諭として従事			実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大教科4年	
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一	実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間	週時間数 1 時間
学習到達目標	1. こどもを助力する立場、いかに支援できるかを理解できる。 2. 教育場面におけるこどもが直面している困難、また援助について事例を通して、対応について習得できる。			
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。			
使用教材	『こども学概論』 井上 敏明・大西 雅子 著 (通信課程テキスト) < 300円 > /『日常生活と教育病理』/井上敏明(著)/朱鷺書房			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。			
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>	
授業計画  後期	17	ガイダンス	「子ども」についての理解を深める。様々な立場から理解する子どもについて考える。	
	18	障害を持つ子どもたちから学ぶべきこと	脳科学、身体科学をベースに、障がいの事実の認知からその対応を探る。絵本から学ぶ認知の違い	
	19	いま教育の何が問われているのか	教育のプロセスで適応障害の児童・生徒の存在を深く考えねばならないことに気付く学習。	
	20	特異な子どもと健康な子どもとの隔たりはなにか	二極化されているといわれる教育の現場にメスを入れた時が見えるか考え合う。	
	21	子どもの能力理解の新しい視点	子どもの知能の違いの発見の必要性を説く。	
	22	知能論から診た学習適応	知能の多様な類型とその働きを司る仕組みについて学ぶ。	
	23	気質やキャラクターに支配される子どもの言動	教育環境内での子どもの生活態度の向うに見える違いの現象観察から子どもの理解を深める。	
	24	新しい視点で子どもを見ると	キャリア教育につながる「ライフスキル」の必要性について理解する。	
	25	子どもの資質の発見法開発—どんな子も伸びるとは—	記憶子どもの資質を考え上で様々なファクターへの理解が必要。そうした知識を総合的に学ぶ。	
	26	子どもの未来に何があるのか	これからの時代、現代人の目指す未来像の討議を中心に未来意識を高めよう。	
	27	子どもの未来を教育の中で実践するとすれば	子どもの将来の糧として必要なスキルの獲得、望まれるブラッシュアップを理解する。	
	28	社会の見方の転換	保護者を含む養育にかかわる立場、また社会の見方への理解をすすめる。	
	29	子どもは大人の小型ではない	大人が考える子どもの教育と子どもにとっての教育について考える。	
	30	昔の子ども、これからの子ども	未来につながる子どもたちを教育していく姿勢を学ぶ。	
31	まとめ	子どもについての学びを総括する。		
32				
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。				

## 授業計画(シラバス)

科目名	臨床心理学	指導担当者名	富森 崇
実務経験	学校でのカウンセリングや発達障害のこどもたちの支援に従事		実務経験: 有
開講時期	前期	対象学科学年	幼児教育・大学4年
授業方法	講義: ◎	演習: 一	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	1. 臨床心理学の研究対象、研究方法を理解できる。 2. 教育場面における臨床心理学が活用される事例を理解し、対応について習得できる。		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	『日常生活と心的病理』/井上敏明(著)/朱鷺書房		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  前期	1	ガイダンス	臨床心理学の概論、及び、臨床心理学を学ぶ意義を説明する。
	2	臨床心理学の基礎知識及び基礎理論《1》	パーソナリティ理論、教育場面での活用について学ぶ。
	3	臨床心理学の基礎知識及び基礎理論《2》	パーソナリティ理論、教育場面での活用について学ぶ。
	4	臨床心理学の基礎知識及び基礎理論《3》	発達理論、教育場面での活用について学ぶ。
	5	臨床心理学の基礎知識及び基礎理論《4》	臨床教育の場で活用する理論を学ぶ。
	6	メンタルヘルスとメンタルヘルスケアの実際《1》	精神疾患のメカニズムと、教育場面での活用について学ぶ。
	7	メンタルヘルスとメンタルヘルスケアの実際《2》	精神疾患のメカニズムと、教育場面での活用について学ぶ。
	8	メンタルヘルスとメンタルヘルスケアの実際《3》	精神疾患のメカニズムと、教育場面での活用について学ぶ。
	9	サイコセラピーの実際《1》	各種心理療法を紹介しながら、クライアントへのエンパワメントの方法を学ぶ。
	10	サイコセラピーの実際《2》	各種心理療法を紹介しながら、クライアントへのエンパワメントの方法を学ぶ。
	11	サイコセラピーの実際《3》	各種心理療法を紹介しながら、クライアントへのエンパワメントの方法を学ぶ。
	12	事例研究《1》	乳幼児期における事例を中心に学習する。
	13	事例研究《2》	学童、青年期における事例を中心に学習する。
	14	事例研究《3》	保護者支援の観点から保護者の抱えるメンタルヘルスケアを学ぶ。
	15	まとめ	臨床心理学についての学びを総括する。
	16		
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション研修Ⅳ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学4年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを深め、高める</li> <li>・集団行動を通して協調性、一般常識やルール、マナーを学ぶ</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションを深め、高める</li> <li>・集団行動を通して協調性、一般常識やルール、マナーを学ぶ</li> </ul>		
使用教材	配布資料		
授業外学習 の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	4年次 国内研修	保育に関する学びを深め、さらに目標に向かって進んでいけるようにする
	2	4年次 学園祭	クラスで協力して一つのことをやり遂げる達成感を味わう
	3	4年次 スポーツフェスタ	体を動かし楽しみ、クラスメイトや上級生などとの交流を図る
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	レクリエーション研修Ⅳ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅳ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大卒科4年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	実習に向けての技術向上を図る。		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成
	2	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習
	3	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習
	4	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成
	5	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習
	6	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習
	7	指導計画案の作成	部分実習の指導計画案の作成
	8	指導計画案の作成・実演	部分実習の指導計画案の作成・ブレ実習
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
<p><b>履修上の留意点</b>  出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。  対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	保育研究Ⅳ	指導担当者名	全教員
実務経験	児童福祉施設で保育士として従事		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科1年 保育士コース
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	わらべうた	わらべうたについての理解
	18	わらべうた	人形制作
	19	製作	ペープサートの製作
	20	製作	ペープサートの製作
	21	実演	ペープサートの発表
	22	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
	23	製作	パネルシアターの製作
	24	製作	パネルシアターの製作
	25	実演	パネルシアターの発表
	26	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
	27	製作	手袋シアターの製作
	28	製作	手袋シアターの製作
	29	実演	手袋シアターの実演
	30	わらべうた	わらべうたについて実演・理解
31	まとめ		
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	PCスキルアップ講座Ⅳ	指導担当者名	井口 義基
実務経験	—		実務経験:
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	1 単位	総時間	15 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入力スピードの正確性の練習。</li> <li>・検定範囲を中心にスライド作成やアニメーションを学ぶ。</li> <li>・全体的なレイアウトを整え、文章・グラフ・パワーポイントの作成を学ぶ。</li> <li>・検定試験に準じた過去問題を解ける力をつける。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	よくわかるWord2021、Excel2021、PowerPoint2021 FOM出版		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	練習問題1.2	Word PowerPoint
	18	練習問題3.4	PowerPoint Excel
	19	練習問題5.6	PowerPoint Excel
	20	練習問題7.8	Excel
	21	練習問題9.10	PowerPoint Excel
	22	練習問題11.12	Word PowerPoint
	23	練習問題13.14	Word PowerPoint
	24	模擬問題	USBメモリ保存・検定に向けた計測(45分)
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	ピアノレッスンⅣ	指導担当者名	齋藤 由香
実務経験	児童福祉施設、幼稚園、介護施設等で講師として従事		実務経験: 有
開講時期	後期	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: 一	演習: ◎	実習: 一 実験: -
単位数	2 単位	総時間	30 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	音楽に関する基本的な知識と技術を身につけ、それらに関する様々な活動を通して、楽しさや喜びを体験し、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な要因とを結びつけ、前年度に習得した「こどもと音楽Ⅰ」の教授内容を基盤に、より高度な目標を持って、授業を展開し、それらをさらに探求することにより、保育の現場における音楽表現力、指導援助力を深めていき、適応力のある指導者を養成することを目的とする		
評価方法 評価基準	学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。 期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。 成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。		
使用教材	やさしいアレンジで楽しく弾ける！保育のピアノ伴奏12か月人気150曲 (株)西東社		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画  後期	17	オリエンテーション	授業内容、課題選択、学習方法、基礎知識などの説明
	18	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	19	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	20	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	21	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	22	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	23	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	24	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	25	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	26	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	27	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	28	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	29	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
	30	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認
31	課題曲のレッスン	課題曲の進捗・完成度の確認	
32			
履修上の留意点 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究Ⅲ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。</li> <li>・研究を通してこども理解と保育者の資質を向上させる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	各自研究テーマに合わせた文献等		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	オリエンテーション	卒業研究について 研究・調査方法の説明
	2	研究テーマについて	研究テーマ・内容の検討と準備
	3		研究テーマ・内容の検討と準備
	4		研究テーマ・内容の検討と準備
	5	研究・調査	研究・調査実施
	6		研究・調査実施
	7		研究・調査実施
	8		研究・調査実施
	9		研究・調査実施
	10	中間報告会	研究・調査経過確認
	11		研究・調査経過確認
	12	研究・調査	研究・調査実施
	13		研究・調査実施
	14		研究・調査実施
	15		研究・調査実施
	16		
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究Ⅲ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科2年 保育士コース
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17	中間報告会	研究・調査経過確認
	18		研究・調査経過確認
	19	まとめ	研究・調査のまとめ
	20		研究・調査のまとめ
	21		研究・調査のまとめ
	22		研究・調査のまとめ
	23		研究・調査のまとめ
	24		研究・調査のまとめ
	25		研究・調査のまとめ
	26		研究・調査のまとめ
	27		研究・調査のまとめ
	28	発表	卒業研究発表
	29		卒業研究発表
	30		卒業研究発表
31		卒業研究発表	
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究Ⅳ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。</li> <li>・研究を通してこども理解と保育者の資質を向上させる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	各自研究テーマに合わせた文献等		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	オリエンテーション	卒業研究について 研究・調査方法の説明
	2	研究テーマについて	研究テーマ・内容の検討と準備
	3		研究テーマ・内容の検討と準備
	4		研究テーマ・内容の検討と準備
	5		研究・調査実施
	6		研究・調査実施
	7		研究・調査実施
	8		研究・調査実施
	9		研究・調査実施
	10		研究・調査経過確認
	11		研究・調査経過確認
	12		研究・調査実施
	13		研究・調査実施
	14		研究・調査実施
	15		研究・調査実施
	16		
<p><b>履修上の留意点</b>  出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。  対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	卒業研究Ⅳ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	こども保育科2年 保育士コース
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: - 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		研究・調査経過確認
	18		研究・調査経過確認
	19		研究・調査のまとめ
	20		研究・調査のまとめ
	21		研究・調査のまとめ
	22		研究・調査のまとめ
	23		研究・調査のまとめ
	24		研究・調査のまとめ
	25		研究・調査のまとめ
	26		研究・調査のまとめ
	27		研究・調査のまとめ
	28		研究・調査のまとめ
	29		研究・調査のまとめ
	30		研究・調査のまとめ
31		研究・調査のまとめ	
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	特別研究Ⅲ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。</li> <li>・研究を通してこども理解と保育者の資質を向上させる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 前期	1	オリエンテーション	就職について
	2	就職について	就職の目標を立案
	3		就職活動の準備、自分自身について知る
	4		就職活動の準備、履歴書作成 他
	5		就職活動の準備、履歴書作成 他
	6		就職活動の準備、履歴書作成 他
	7		就職活動の準備、履歴書作成 他
	8		就職先のリサーチ
	9		就職先のリサーチ
	10		就職先のリサーチ
	11		面接練習(グループ毎)
	12		面接練習(グループ毎)
	13		面接練習(グループ毎)
	14		面接練習(グループ毎)
	15		面接練習(グループ毎)
	16		面接練習(グループ毎)
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	特別研究Ⅲ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			

## 授業計画(シラバス)

科目名	特別研究Ⅳ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会・児童文化など、教育と文化の両局面から学生自身が最も興味の深い課題を設定し、研究する。</li> <li>・研究を通してこども理解と保育者の資質を向上させる。</li> </ul>		
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材	配布資料		
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
学期	ターム	項目	内容・準備資料等
授業計画 前期	1	オリエンテーション	就職について
	2	就職について	就職の目標を立案
	3		就職活動の準備、自分自身について知る
	4		就職活動の準備、履歴書作成 他
	5		就職活動の準備、履歴書作成 他
	6		就職活動の準備、履歴書作成 他
	7		就職活動の準備、履歴書作成 他
	8		就職先のリサーチ
	9		就職先のリサーチ
	10		就職先のリサーチ
	11		面接練習(グループ毎)
	12		面接練習(グループ毎)
	13		面接練習(グループ毎)
	14		面接練習(グループ毎)
	15		面接練習(グループ毎)
	16		面接練習(グループ毎)
<p><b>履修上の留意点</b></p> <p>出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。</p> <p>対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。</p>			

## 授業計画(シラバス)

科目名	特別研究Ⅳ	指導担当者名	全教員
実務経験	保育現場で保育者としての勤務経歴有り		実務経験: 有
開講時期	通年	対象学科学年	幼児教育・大学科4年
授業方法	講義: -	演習: ◎	実習: ○ 実験: -
単位数	4 単位	総時間	60 時間 週時間数 1 時間
学習到達目標			
評価方法 評価基準	<p>学期末試験の実施及び実習成果の評価の他、出席状況、授業課題としてのレポート等の提出状況などを点数配分し、100点満点で評価している。</p> <p>期末試験は実技試験や筆記試験によって行われ、受験資格として授業実施の出席率80%以上を要件としている。期末試験の結果、必要と認められる場合には追試験を実施する。</p> <p>成績評価は、A(80点～100点)(優)、B(70点～79点)(良)、C(60点～69点)(可)、D(0点～59点)(不可)、の4段階評価とする。A、B、Cの評価は合格として単位を認定し、D評価の場合は不合格となり単位を喪失する。</p>		
使用教材			
授業外学習の方法	授業内容の復習。課題が出された場合は自宅にて実施。		
<b>学期</b>	<b>ターム</b>	<b>項目</b>	<b>内容・準備資料等</b>
授業計画 後期	17		
	18		
	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		
31			
32			
<b>履修上の留意点</b> 出席率が80%に満たない場合は、期末試験の受験資格を与えない。 対面授業が困難な際は、遠隔授業も併用実施する。			